

【講義 1 1】 国文学研究資料館 和古書目録データベースの作成

「日本古典籍総合目録データベース」 の3つのデータソース

国文研所蔵和古書

通称:和古書(W)



他機関等の
既刊目録

通称:古典籍(K)

他機関等の発行した目
録類を収集して作成



他機関等のマイクロ
フィルム・デジタル
画像

通称:マイクロ(M)

他機関等の所蔵資料
を撮影し作成したマ
イクロフィルム・デ
ジタル画像



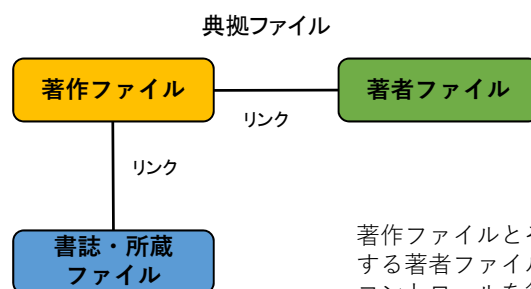
3つのデータソースは別々に整理、提供されてきたが、現在
それを統合して日本古典籍総合目録DBとして提供している

「国文学研究資料館和古書目録データベース」と 「日本古典籍総合目録データベース」の関係



館蔵和古書目録DBは日本古典籍総合目録DBの「和古書」部分のみを検索する、国文研の所蔵目録データベース

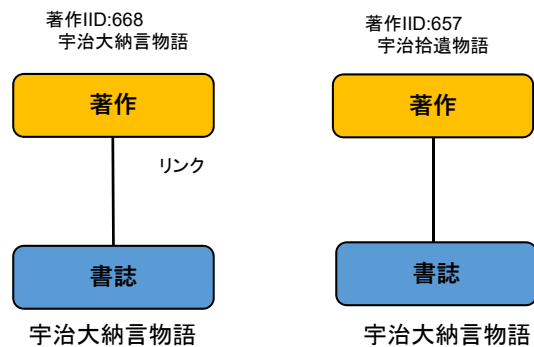
日本古典籍総合目録の基本構造



著作ファイルとそれにリンクする著者ファイルにより典拠コントロールを行っている

書誌と所蔵レコードは一体となって表示される（NACSIS-CAT等では、書誌レコードと所蔵レコードは別）

典拠コントロールを行う必要性



同じ「宇治大納言物語」の書名を持つものでも、著作が異なることがある。逆に、同じ著作でも書名が異なる場合もある

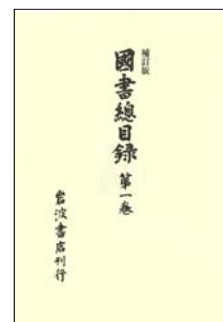
「著作」と『国書総目録』

著作の種類

1. 『国書総目録』由来の著作およびそれを修正した著作（通称：国書著作）
2. 国文研作成著作

『国書総目録』と日本古典籍総合目録DBの歴史

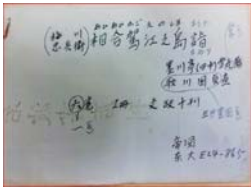
年代	和古書
1939年	『岩波国書解題』構想、国書カード採取開始
1957年	『国書総目録』構想、編纂開始
1963年	『国書総目録』刊行開始（～1976年。全8巻＋著者別索引）
1989年	『国書総目録』補訂版刊行
1990年	『古典籍総合目録』全3巻刊行(国文研編集、岩波書店出版)
1999年	「国書基本データベース（著作篇）」運用開始
2002年	『国書総目録』の著作権を国文研が岩波書店から買い取り
2006年	「日本古典籍総合目録データベース」運用開始



国書著作

当初『岩波国書解題』のために採取された国書カードが著作の元となった

国書カード



『国書総目録』

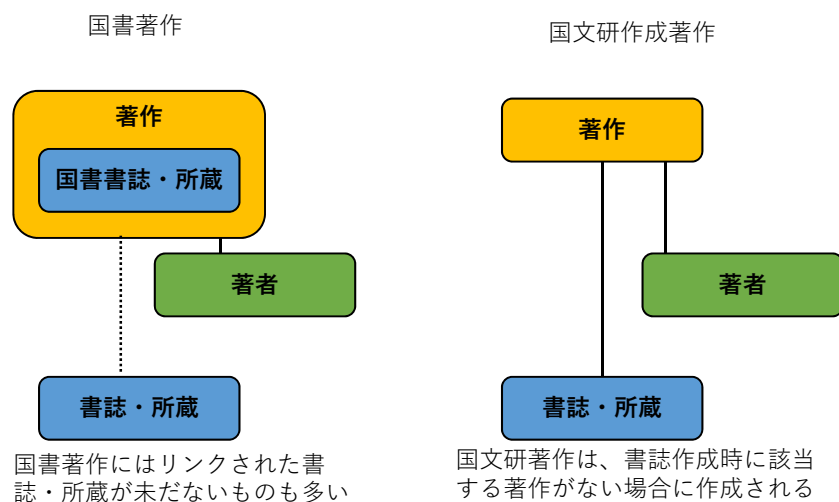
相合駕江之嶋詣
 兵衛 合巻 墨川亭雪麿作、五渡亭国貞
 (三世歌川豊国)画 文政九成、同一〇刊
 国会・東大・早大(合巻本集一七八)

日本古典籍総合目録データベース

著作URL : http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_W_79163

著作ID	79163
統一書名	相合駕江之嶋詣 (あいあいかごえのしまもうで)
巻冊	六巻
角書	梅川忠兵衛
分類	合巻
著者	墨川亭/雪麿 作 五渡亭/国貞(歌川/豊国/三世) 画
成立年	文政九成、同一〇刊
国書所在	【版】国会、東大、早大(合巻本集一七八)
著作種別	和古書
国書	『国書総目録』所収, 1

著作の構造の違い



書誌レコードの目録規則とマニュアル

書誌レコードの目録規則

・独自の「**日本古典籍書誌レコード作成要領**」（配布）により行っている。これは、3つのデータソース（和古書・マイクロ・古典籍）全てのデータ作成の基本になる共通の和古書書誌データの規則であり、研究者からの提言である「日本古典籍の書誌記述」（参考資料として配布）を可能な限り反映したものである。

3つのデータソースごとのマニュアル

・上記作成要領を元に、それぞれ別に整理されてきた経緯から、3つのデータソースごとにマニュアルが作成され、完全に統合されていない。また、マニュアルの改訂が数回行われ、以前のマニュアルに基づく書誌データは現行のマニュアルに合わせて修正されていないため、記入の揺れが生じている。

書誌作成対象となる資料の範囲

資料の範囲

・原則として、「**慶応4年以前に成立した著作の古典籍**」

① 著作の成立年を基準とする

・明治期の整版・木活字版および明治以降に書写した写本（新写本）

は含むが、近代的印刷技法・出版によるものは除外

・個々の資料の書写年・出版年ではなく、その資料に著されている著作の成立により範囲を区切ること、同じ著作の明治版、同版の後刷、後修本などを一括して扱うことが可能となる

② 日本人の編著書（著作）

・日本語以外も含む

③ 形態

・冊子・卷子本等の形態の他、特殊形態資料（一枚物、書簡、貼り交ぜ屏風、浮世絵等の絵画資料など）を含む

なお、この作成要領では本来は漢籍を対象としていないが、所蔵資料の目録としての和古書目録には、漢籍・朝鮮本を含む（1912年以前に著作が成立したもの）。

当館での和古書の範囲外となる、明治初期以降に成立した著作の和装本・整版本は、NACSIS-CATへ登録を行っている。

書誌レコードの作成単位

(1) 個別資料ごと

個々の、書誌的に他と区別されるひとまとまりの資料ごとに書誌レコードを作成する。

これは、同版ごとに書誌記述を共有できる現代の資料とは異なる、次のような和（漢）古書の特徴によるものである。

- ・長く伝来する間にその装丁の特徴から、冊数、大きさ、装丁等様々な改変が行われる可能性があり、手元の資料のみからでは、他の資料との同定識別等の判断が困難であること。さらに書入れや蔵書印等が付加されること。
- ・同版である各伝本に相違があること。同一の版本を用いても、刷り毎に部分的な省略や入れ木による修訂が行われる場合があり、料紙が異なることもある。したがって、版の特定が困難である上に、刷りによる差異を考慮する必要がある。
- ・これらの違いが本文・内容に及ぶこともある。

書誌レコードの作成単位

(2) 著作単位

資料中に出現する著作の単位ごとに、レコードを作成する。その単位の認定は、著作典拠ファイルによる。

① 単独書誌

資料の多くは1著作に対応する単位であり、その場合は1件のレコードを作成する。複数冊のものであってもひとまとまりと考え、また、同じ著作の部分であるならば、書名が途中で変わっても1件のレコードとする。



1 書誌に対し 1 著作

書誌レコードの作成単位

② 階層構造として表現する書誌

1つの資料の中に複数の著作に対応する部分があるときは、全体に対応するレコードに加えて、その部分ごとのレコードを作成する。さらに書誌に現れる叢書、合刻などの著作間の関係を書誌構造としてとらえ、書誌レコードを相互に関連づけ、その種別を表示する。

②-1 【叢書】 1資料に複数の著作が収録されており、全体としても1つの著作になっている

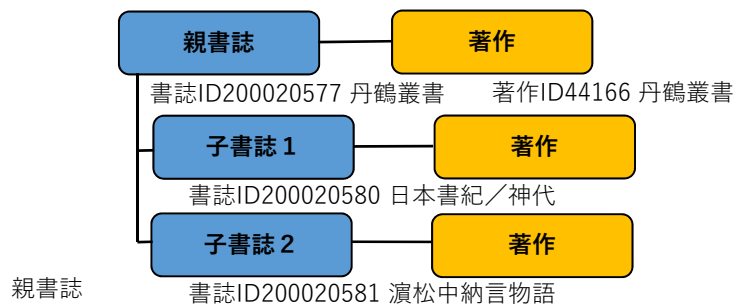
叢書 数種以上の書籍（抄録も含む）を総合して収録した書籍群。
（『日本古典籍書誌学辞典』）

②-2 【合写・合刻】 1資料に複数の著作が収録されているが、全体としては著作になっていない

合写 複数の書籍を、何らかの事情で一度に合わせ書写し、一部の書籍とすること。

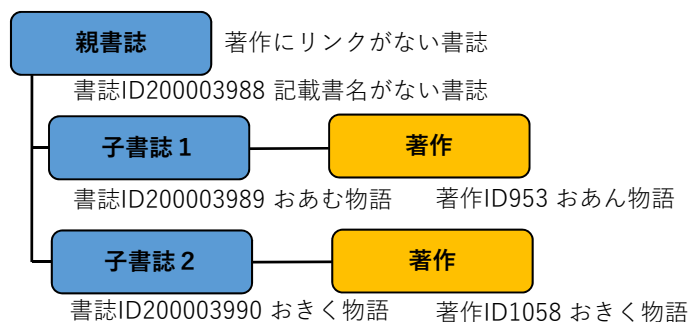
合刻本 同傾向の内容の二、三種の作品が、一書をなす分量の上から、まとめられて出版されたもの。（『日本古典籍書誌学辞典』）

②-1 【叢書】



書誌ID	200020577	丹鶴叢書, K. 1. 水野／忠央 編. 弘化四-嘉永六刊. 28, 44166
記載書名	丹鶴叢書(たんかくそうしょ), 内・外・柱	
記載著者名	源／忠央 輯刻	
刊写の別	刊	
出版事項	出雲寺／文次郎〈京都〉, 秋田屋／太右衛門〈大阪〉, 岡田屋／嘉七〈江戸〉, 中屋／徳兵衛〈江戸〉	
形態	26. 1×18. 1 cm, 大, 13冊	
書誌構造	叢書	
子書誌	日本書紀／神代, 濱松中納言物語, 風につれなき物語, 狩弓藤割次第, 諸般日記	

②-2 【合写・合刻／合綴】



書誌ID	200003988
刊写の別	刊
出版事項	須原屋／茂兵衛（すはらや／もへえ）〈江戸〉，須原屋／伊八（すはらや／いはち）〈江戸〉，河内屋／喜兵衛（かわちや／きへえ）〈大阪〉，浅倉屋／久兵衛（あさくらや／きゅうへえ）〈東郷〉
形態	大，1冊
書誌構造	合刻
子書誌	おあむ物語，おきく物語

NACSIS-CATの統一書名典拠レコード

（１）目録システムコーディングマニュアル 14.2.1D 2012改訂

「日本古典籍総合目録データベース」に収録されている日本語の古典作品は、同データベースの著作レコード中の「統一書名」をそのままタイトルとして採用する。あわせて、付記事項として「KOTEN:」に続けて同レコード中の「著作ID」（著作レコード番号）を記録する。この付記事項は識別の必要の有無にかかわらず記録する。

(例) HDNG: 竹取物語(KOTEN:5389)||タケトリ モノガタリ

http://catdoc.nii.ac.jp/MAN2/CM/14_2_1.html

NACSIS-CATの統一書名典拠レコード

(2) レコード調整の必要がある場合

統一書名典拠レコード作成にあたっての「日本古典籍総合目録データベース」との調整手順

http://catdoc.nii.ac.jp/pdf/touitu_tejyun.pdf

調整先E-Mail: qa-koten[at]nii.ac.jp [at]を@に変えてください。

(3) 参照URL

<http://catdoc.nii.ac.jp/index.html> コーディングマニュアル14章

改訂について一連の参照URLあり

http://catdoc.nii.ac.jp/pdf/CM14_Q&A.pdf

参考文献

- ・『国書総目録』補訂版. 1989, 岩波書店
 - ・井上宗雄ほか編『日本古典籍書誌学辞典』. 1999, 岩波書店
 - ・相田満. 和漢古典学のオントロジモデルの構築. 和漢古典学のオントロジ. 2004, 2, (02), p. 81-91 (2004-03)
- <http://id.nii.ac.jp/1283/00001974/>, (参照2019-06-17)

NCR87R3*、NACSIS-CATコーディングマニュアル、国文学研究資料館日本古典籍書誌レコード作成要領 項目対照表

*NCR：日本目録規則改訂3版 第2・3章・用語解説

日本目録規則(NCR87R3)	NACSIS-CAT コーディングマニュアル	日本古典籍書誌レコード作成要領
規則の対象資料		1. 通則
和古書、漢籍 第2章 図書... 印刷された日本語の図書(和漢古書に特有の規定を含み洋書にも適用可) 第3章 書写資料... 書写された資料・手稿(和漢古書に特有のを含み洋書にも適用可)	和漢古書及びそれに準じて扱った方がよい資料	日本古典籍総合目録データベースの書誌ファイルの入力データとして作成 当館が収集する日本の古典籍(江戸時代以前の写本・版本) →和古書・マイクロ および 古典籍総合目録データ
適用範囲	1. 適用範囲	1. 1 対象となる資料の範囲
原則として、和古書は江戸時代まで、漢籍は辛亥革命以前のもの (和古書)日本人の編著書で、日本文で書かれ、日本で、主として江戸時代まで(1868年以前)に書写・刊行された資料。 (漢籍)中国人の編著書で、中国文で書かれ、主として辛亥革命(1911年)以前に著述、刊行された資料。日本で刊行されたものをも含む。	原則として、和古書は1868年以前、漢籍は1912年以前のもの ただし、幕末・清朝末期のもので近代的印刷技法・出版形態によって大量出版されたものは、和漢古書扱いしなくてもよい(→版毎の書誌レコードを共有) また、明治期／民国以降のものであっても、和漢古書としての取扱いが適当と思われる書写資料、少数部数の刊行物などは和漢古書扱い	原則として、慶応4年(1868年)9月明治改元までに成立し、日本人が著編撰訳等した著作の古典籍(写本・版本) この範囲で明治期の整版本・木活字本等及び明治以降に書写した写本(新写本)も含む 典籍(冊子・卷子本・帖装等)、ただし特殊形態資料も含む 日本人が手を加えていない漢籍は和刻本でも対照としない(→「和古書作業用マニュアル」で扱う)
書誌レコード作成単位①		1. 4 レコード作成の単位
和古書、漢籍については、1書誌1所蔵(これまでは、1書誌に複数の所蔵が対応) 和古書、漢籍については、個別資料ごとに別の記述を作成する。	1書誌1所蔵、記述対象資料毎に別書誌レコードを作成その旨を最初の注記として記録	1書誌1所蔵 原則として書誌的に他と区別されるひとまとまりの資料全体についての書誌的単位 (1)ひとまとまりの資料が1つの著作に対応している場合、そのまとまりをレコード作成の単位とする (2)複数のまとまりの資料が1つの著作に対応している場合、その各々をレコード作成の単位とする なお、刊年、書肆等から同版と考えられるものがある場合でも、各々をレコード作成の単位とする
書誌レコード作成単位②		
固有のタイトルを有する単独に刊行された図書についてレコードを作成 複数の著作が含まれる場合も、原則としては1件のみ(→タイトル参照) なおその場合、それぞれの著作を記述の本体とすることも可(任意規定)	(同)	本としてのまとまり(書誌単位)及び著作単位 単独の場合は、書誌・著作の単位一致で1件のみ 叢書の場合、全体で1件と含まれる個々の著作単位とする 合刻・合写・合綴も叢書と同様 書誌構造を持ち、レコードの関連づけ

統一タイトル	9. 統一タイトルの取扱い	2. 1 著作との照合
タイトル標目については、無著者名古典、聖典および音楽作品の範囲内で統一標目(統一タイトル)を用いることができる(任意規定)	日本語・中国語の古典作品については、統一タイトルを記録し、また統一書名典拠レコードを作成してリンク形成することができる 和漢古書における著作単位での集中の重要性を考慮し、著者を有する古典作品にも適用 「日本古典籍総合目録データベース」に収録されている日本語の古典作品は、同データベースの著作レコード中の「統一書名」をそのままタイトルとして採用する。付記事項として「KOTEN:」に続けて「著作ID」(著作レコード番号)を記録する。 著作レコード中に「著者」が存在する場合は、「著者」を最初の付記事項としてまず記録し、続けて「著作ID」を記録する。	該当する著作典拠ファイルの統一書名
著者については、典拠ファイルによる著者標目を付与	著者については、典拠ファイルによる著者標目を付与	著作にリンクしている著者の統一著者名及び作品著者名
各書誌的事項の情報源	2. 各書誌的事項の情報源	
和古書、漢籍については、情報源の選択に当たり、時代、ジャンルあるいは造本等の事情を考慮する(優先順位はなし)	情報源として有効である箇所およびその優先順位は、時代・分野・更には記述対象資料により異なるので、資料全体を情報源として検討 各書誌的事項において比較的有効である情報源は、下記の通り	書誌事項は資料自体(付表2) 著作・著者レコードは参考資料も含む
ア)タイトルと責任表示(漢籍は巻頭を優先) (1)巻頭、題簽、表紙 (2)目首、自序、自跋、巻末 (3)奥付、見返し、扉、版心、著者・編者以外の序跋 (4)小口書、識語等 イ)版……なし(該当条項参照) ウ)出版・頒布等……刊記、奥付、見返し、扉、版心、序跋、識語等 エ)形態……その記述対象から オ)シリーズ……その記述対象から カ)注記……どこからでもよい	1) タイトルと責任表示に関する事項 — ① 巻頭、題簽、外題 ② 目首、自序、自跋、巻末(尾題も含む) ③ 奥付、奥書、見返し、扉、版心、小口書、著者・編者以外の序跋、識語等 2) 出版・頒布等に関する事項 — 刊記、奥書、見返し、扉、序、跋、識語等 3) 形態に関する事項 — その資料から 4) 書誌構造リンク — その資料から 5) 注記 — どこからでもよい	
記述対象図書によるべき情報源がない場合は、参考資料等調査し、必要な書誌的事項に関する情報を入手し記録(補記)	記述対象図書によるべき情報源がない場合やあっても不適当な場合は、参考資料等調査し、必要な書誌的事項に関する情報を入手し記録(補記) 必要があれば注記にその情報源を示す	これまで補記はなし 今後は標目書名・記載著者名役割に補記を可とする予定

タイトル 代表の書名を所定の情報源から採録(本タイトル) 本タイトルとしなかった書名は注記できる 複数の著作が含まれる場合、1件のデータを作成 総合タイトルあり→本タイトル 総合タイトルなし→個々のタイトル表示あり→列挙して本タイトル (別紙2) 書名の記載がない場合は、適切なタイトルを補記	代表の書名を所定の情報源から採録(本タイトル) 検索の便宜等、必要に応じて、記載等の書名を記録することができる (同)	3. 3 標目書名 〈標目書名〉(当面記入しない) … 原則として、対応する著作の統一書名を資料の代表書名と見なす ただし、統一書名が資料を表すのに不十分かつ、記載書名もないときには、目録作成者が決定した標目書名を記入 合綴・合刻・合写の親書誌については記入の場合あり 〈記載書名〉 原本中に記載の書名を部所とともにすべて採録 合題(総合タイトル)は親データの記載書名として採録 標目書名を参考資料により記入する場合は補記 記載書名の補記はしない
書誌的巻数 和古書、漢籍については、本タイトルの一部として末尾に書誌的巻数をスペースに続けてアラビア数字で記録 欠本の場合は完本の巻数の後に記述対象の現存巻数を丸がっこに入れて「存n巻」と付記。存巻ないし欠巻の内容や残欠の状況については注記する 完全本巻数不明のときは、()に入れて現存巻数のみ	タイトルの一部として、書誌的巻数を、アラビア数字で記録 不完全本のときは、完全本の巻数に続けて()に入れて現存巻数を付記 完全本巻数不明のときは、()に入れて現存巻数のみ 一巻(巻立てがない)の場合は記録しなくてもよい	3. 6 巻次 3. 11 残欠表示 完全本の場合、そろいの、内容としての巻を、原本から巻次に記入 不完全本の場合は残欠表示に記入
著編者(責任表示) 所定の情報源に記載の著者名を採録 和古書、漢籍については、記載がない場合、参考資料等調査し補記(これまでは注記) 複数の著者を記載のとき、役割ごとに2人まではそのまま採録し、3人以上のときは主たるものをとり、[ほか]とする 漢籍のとき、()に入れて王朝名を著者名の前に付記してよい	(同) 記載がない場合、参考資料等調査し補記 (同) 漢籍のとき、()に入れて王朝名を著者名の前に付記してよい	3. 5 記載著者名 〈記載著者名〉 原本記載の著者名をその役割等とともにそのまま記載、ひとりについて複数の異なる記載がある場合は選択 役割の補記はあり 著者の記載がない場合は記入しない 〈複数の著者〉 役割毎に主要な3人まで(4人目以降は省略)記録、「等」とするが、場合により省略しない(4人の句集など) 〈伝聞・推定の著者〉 原本に著者名とともに著者が言い伝えによることを示す「伝」等の記載がある場合は、「伝」を記入 〈部編等の注記〉 資料が複数の部分に分れ各々著者が異なる場合は、該当する部編名等を著者名とともに記入 〈国名・中国王朝名〉 原本記載の著者名(外国人)に国名(蘭・英等)、中国王朝名(唐・清等)が付されている場合は()に入れて前に記入

版表示 和古書、漢籍については、版木の異同について判断できた場合に記録。省略した場合は資料中の版に関する語句を注記 書写資料では、いくつかある稿の区別等のため、識別できた場合に記載	和漢古書については記録しない 同版ごとの記述を行わないこと、的確な判断や記入が困難等の理由による。必要に応じて注記 和漢古書については記録しない	必要に応じて版注記に記録 必要に応じて書写注記等に記録
出版事項(第2章)		3. 8 出版事項
出版地、出版者、出版年 複数ある場合、出版地ごとに1組を採録 1つの出版地に複数の出版者があるときは、顕著なもの、最後のものの順で採録、[ほか]とする。 (これまでは複数ある場合、1つの組を選択 和古書を記述する場合は、奥付に表示されている最後の出版者か、見返しに表示されている最初の出版者を記録)	出版地、出版者、出版年 複数ある場合、出版地ごとに1組を採録 1つの出版地に複数の出版者があるときは、顕著なもの、最後のものの順で採録、[ほか]とする。 なお、組は4つまで、出版者も複数採録可。	出版者、出版地、出版年 すべての出版地、出版者を採録
〈出版地〉 原則として市町村名をとる 古地名は、表示されている出版地をそのまま記載、都道府県名を必要に応じて補記 表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版地不明]とする	〈出版地〉 表示されている出版地をそのまま記載、必要に応じて、当時の都市名・国名を付記または補記 地名の別称のときは通行の地名を補記 表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版地不明]とする	〈出版地〉 表示されている出版地をそのまま記載、ただし都市名のレベルで記載するので、町等の下位レベルのとき、都市名に置換する、このとき、京・大坂・江戸のときはこの形を用いる 表示されていない場合は記録しない
〈出版者〉 表示されている出版者名をそのまま記録 明治初期までの和古書の出版者は個人名書肆名ともそのまま記録(これまでは屋号のあるものは屋号に続けて名のみ記録) 表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版者不明]とする	〈出版者〉 表示されている出版者を記録 明治初期までの和古書の出版者は個人名、屋号の有無に関わらずそのまま記載 表示されていない場合、同一書の他の諸本や信頼できる参考資料があれば補記も可、不明の場合は、[出版者不明]とする	〈出版者〉 表示されている出版者を記録 個人名、書肆名ともにそのまま記載 表示されていない場合は記録しない
〈出版年〉 和古書、漢籍については、刊行年を「刊」という用語を付して記録する。刊行年とは別に印行年が判明した場合、「印」という用語を付して丸がっこに入れて付記する。印行年のみが判明した場合は「印」という用語を付して記録する。どちらか不明の時は年のみを記録する。表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版年不明]も可	〈出版年〉 刊行年が判明した場合、「刊」という用語を付して記録、別に印行年が判明した場合は、「印」という用語を付して丸括弧(())に入れて付記、印行年のみが判明した場合は、「印」という用語を付して記録。刊か印か不明のときは年のみ記録 表示されていない場合は、調査・推定により補記し、不明の場合は、[出版年不明]も可	〈出版年〉 刊年はその本が出版された年とする 従って再刻、後修、後刷の場合は、再刻等された年を刊年とする、その際、以前の出版に関わる年は〈版に関する注記〉に記入 表示されていない場合は記録しない
出版年がない場合は序跋年を採録 原則として元号＋数字で西暦年の補記 元号＋干支は年に置換 干支のみは、わかれば推定の形で記入	出版年がない場合は序跋年を採録 原則として元号＋数字で西暦年の補記 元号＋干支は年に置換 干支のみは、わかれば推定の形で記入	序跋年は必要に応じて注記に記録 元号＋年数 元号＋干支は元号＋年数に置換 干支のみは注記

書写事項(第3章)		3.7 書写事項
製作事項 書写地、書写者、書写年	製作地(=書写地)、製作者(=書写者)、製作者(=書写者)	書写者、書写地、書写年 原本から転記、明確な記載(最終書写記等)がある場合のみ 転写本の場合の以前の書写に関する事項等は注記
書写地、書写年については、出版地、出版年と同様 自筆・転写に関わらず、書写者を採録 「写」を付して記録、自筆と判明した場合は「自筆」という用語とともに記録する 不明の場合は、[書写者不明]とする 書写者(=著者)は記録せず、必要に応じて注記	自筆・転写に関わらず、書写者を採録 自筆の場合は「自筆」、転写の場合は「写」という用語とともに記録、自筆か転写か不明の場合は、書写者名のみ記録	自筆・転写に関わらず、書写者を採録 自筆の場合は注記
形態に関する事項		
〈冊数〉 1冊の場合はページ(丁)数、複数冊の場合は冊数を記録 ほかに、軸(巻もの)・舗(畳みもの)	現在の形態について記述、原装の形態については必要に応じ注記する。 〈員数〉 単位として、「冊」の他にNCR87R2第10章別表・付「特定資料種別の数量表示(単位名称・助数詞)について」の単位も可 単位:冊・軸・枚・舗・帖・通……	現在の形態について記述、原装の形態については必要に応じ注記する。 3.9 数量 数量を原本から記入 「冊」等の単位を用いて数字+単位で記入 単位:冊・帖・軸・幅・枚・通・舗…… その他詳細情報(折・面・曲・綴・帙等)については注記 3.10 形態的事項 〈丁(葉)数〉 1冊の場合、原本から記入 合刻・合綴等の子が1冊未満のとき記入
〈大きさ〉 和古書、漢籍については、高さをcm単位で、小数点以下1桁まで記録 縦長・横長・柵型本は縦×横cm (任)和古書、漢籍については常に縦、横の長さを「×」印で結んで記録する。また、大きさを書型に対応させた用語等を丸がっこに入れて記録することができる。 (別)大きさを書型に対応させた用語等により記録 巻ものは料紙の高さ 畳ものは広げて縦×横cm	〈大きさ〉 センチメートルの単位で小数点以下1桁まで記録することができる ふつうの冊子本等についても、縦・横の順でその長さを「×」で結んで記録することができる また、美濃判等、大きさを紙型に対応させた用語等を丸括弧(())に入れて付記することができる。	〈大きさ〉 センチメートル単位で測り、小数点第1位まで記入 (1)縦×横 を記入する (2)大・半・中・小等に該当するものについては、両方記入 特大・特小・柵・縦・横に該当するものについては、縦×横、紙型の両方を記入 (3)卷子本等は、料紙の幅(高さ) (4)畳物については畳んだ大きさの縦×横

注記		3. 13 注記
<p>下記の特定期項に属さない注記</p> <p>タイトルに関する注記</p> <p>責任表示に関する注記</p> <p>版および書誌的来歴に関する注記</p> <p>出版・頒布・製作等に関する注記</p> <p>形態に関する注記</p> <p>内容に関する注記</p> <p>注・訓点・識語・書き入れ等に関する注記</p> <p>伝来に関する注記</p>	<p>書誌作成単位に関する注記</p> <p>写本に関する注記</p> <p>通則に関する注記(所定以外の情報源等)</p> <p>書誌学的通称名、本文の系統等に関する注記</p> <p>タイトルに関する注記</p> <p>責任表示に関する注記</p> <p>出版に関する注記</p> <p>版式(版面)に関する注記</p> <p>巻冊次と残欠の注記</p> <p>装丁に関する注記</p> <p>印記に関する注記</p> <p>その他(注、訓点、節付記号、識語、書き入れ、付箋、等)</p>	<p>必要に応じて、前項までの各記述項目に対する説明等の注記を原本、参考資料等から記入</p> <p>なお、貴重書及びそれに準ずるものについては、できる限り詳しく記入</p> <p>〈系〉(系統注記)</p> <p>〈著〉(著者に関する注記)</p> <p>〈版〉(出版に関する注記)</p> <p>〈写〉(書写に関する注記)</p> <p>〈序〉(序跋注記)</p> <p>〈形〉(形態注記)</p> <p>〈奥〉(奥書・識語注記)</p> <p>〈書〉(書き入れ・校合注記)</p> <p>〈伝〉(伝来注記)</p> <p>〈叢〉(叢書注記)</p> <p>〈般〉(一般注記)</p> <p>〈備〉(備考)</p>

日本古典籍総合目録データベースの検索

今回想定する古典籍DBの利用目的

目の前に整理中（詳細不明）の古典籍があり、それが何なのか調べたい。

⇒ その古典籍が古典籍DB中のどの著作（作品）なのか特定する。

同著作同版の資料など目録作成の参考になる情報を探す。

- 1) 基本構造の説明
- 2) 検索画面の見方
- 3) 検索結果の見方（検索結果のうちどれから優先して調べていくか）
- 4) 詳細画面の見方（検索結果と手元の資料をどうやって照合するか）

1) 古典籍DBの基本構造

古典籍DBは「**著作**」と「**書誌**」の2テーブルの組み合わせを主軸に構成されています。

著作 … 著作物としての情報。編著者、成立年代など。約49万件。

書誌 … 実体としての情報。所蔵者（所在）、刊写、冊数など。約62万件。

著作レコードと書誌レコードは基本的に1対多の関係ですが、書誌を持たない著作も著作を持たない書誌も存在します。

『国書総目録』（補訂版，岩波書店，1989-1991）から引き継いだ情報（約80～100万件の所在情報を含む）を、著作レコードとして収録しています。そのため、著作レコードだけでも資料の所在等（『国書総目録』刊行時点）を調べられる場合があります。

書誌レコードは、その情報源により3つの種別に区分されています。

それぞれ記述規則が異なるため、情報量にも若干の差があります。

和古書（**W**） 国文研で所蔵している原本に基づくもの。

マイクロ（**M**） 国文研で作成し所蔵している複製に基づくもの。原本は他機関所蔵です。
媒体はマイクロフィルム、紙焼き本、デジタル画像です。

古典籍（**K**） 他機関の蔵書目録に掲載されている書誌情報に基づいて転記したもの。
種別Mと同じ資料を示している場合があります。

2) 検索画面の見方

○検索範囲

前述の古典籍DBの書誌レコードの種別によって検索範囲を調整できます。

すべて（日本古典籍総合目録データベース）	W+M+K
国文研所蔵和古書（館蔵和古書目録データベース）	W
国文研マイクロ	M
国文研所蔵和古書+マイクロ	W+M

○検索結果一覧

検索対象とするテーブルを、著作・書誌・著者から選択できます。

書誌を検索対象とする場合、DB 上で閲覧できる本文画像の有無も追加で指定できます。

DB 上で本文画像が見られる書誌レコード

- ・デジタル画像に基づく種別 M のもの
- ・マイクロフィルムに基づく種別 M のうちデジタル変換済のもの
- ・国文研所蔵原本（種別 W）のうちデジタル撮影済のもの

書誌一覧（書誌検索）と著作一覧（著作検索）の違い

例）書名＝「万葉集」（中間一致）で検索した場合

- ⇒ 著作検索では、書誌レコードの書名だけに「万葉集」を含む著作はヒットしない。
- 書誌検索では、書誌レコードのない著作は「万葉集」を含む書名でもヒットしない。

現状、書誌を持たない著作の方が多いので、著作検索の方が検索洩れのリスクは低い。

ただし、刊年や発行書肆（書店）など、書誌レコードに含まれる情報が判明している場合、それらの情報も検索条件として併用して書誌検索を行う方が効率的な可能性がある。

○検索項目

検索結果一覧で指定したテーブルから、検索先とする項目（フィールド）を選択できます。

古典籍 DB では、多様な古典籍資料を収録する都合上、注記（備考）欄に含まれる記述が少なくないので、検索洩れを減らしたい場合は「全項目」を対象に指定する。

例）書名（全て）＝「万葉集」（中間一致）で著作検索した場合 ⇒ 448 件
全項目 ＝「万葉集」（中間一致）で著作検索した場合 ⇒ 510 件

書名が判明している場合でも、検索項目としては「全項目」を使用した方がよい。

古典籍総合目録 DB と新日本古典籍総合 DB の違い

両 DB でレコードを共有していますが、新日本古典籍総合 DB は画像公開に特化して書誌中心に構築されており、上記の書誌検索に準じる検索方式となっています。

「古典籍の画像を探す」ことが目的であれば新日本古典籍総合データベースを、「古典籍の書誌情報を検索する」ことがあれば古典籍総合目録データベースを使用してください。

3) 検索結果の見方

○著作検索結果一覧

【著作一覧】

戻る 検索画面

検索条件：[書名（すべて）：'源氏物語' (完全一致)]

該当件数：6件（1-6件目）

全項目 ▼

検索

表示件数 100 ▼

全選択

全解除

著作詳細

No.	統一書名, 国書レコードか否か, 国書内同名異書連番, 分類, 作品著者名, 成立年, 書誌件数, WID
<input type="checkbox"/> 1	い 源氏物語, ろ K, 1, 物語, は 紫式部, に 690, 2357
<input type="checkbox"/> 2	源氏物語, K, 2, 注釈, 大庭/宗分, 天正一〇, 0, 2368
<input type="checkbox"/> 3	源氏物語, N, 0, 注釈, 1, 456848
<input type="checkbox"/> 4	源氏物語, N, 0, 注釈, 1, 1081443
<input type="checkbox"/> 5	源氏物語, N, 0, 注釈, 1, 3240537
<input type="checkbox"/> 6	源氏物語, N, 0, 石塚/竜磨, 1, 4378882

全選択

全解除

著作詳細

著作詳細を確認したい場合、目的の行をクリックする。

もしくは、目的の行の左端にある□をクリックして✓を入れてから〔著作詳細〕をクリックする（複数選択可）。

どのような著作から優先して調べていくか（一覧表示情報の範囲で）

- い) 統一書名（DB 上の見出し書名）が合致または近似のもの
 - ※同名異書が珍しくない（上図参照） → 作品著者名と分類で判別
 - ※著作に別名があっても一覧には表示されない。
- ろ) 内容に基づく分類が合致または近似のもの
- は) 作品著者名が合致または近似のもの
- に) 書誌件数（その著作に該当する書誌レコードの件数）が多いもの
 - ※上の例では、紫式部の『源氏物語』に 690 件の書誌レコードがあることが分かる。

○書誌検索結果一覧

[戻る](#)
[検索画面](#)

【書誌一覧】

検索条件：[書名（すべて）：'伊勢物語註']

該当件数：44件（1-44件目）

全項目 ▼

検索

表示件数 100 ▼

全選択

全解除

書誌詳細

統一書名, 国書レコードか否か, 国書内同名異書連番, 分類, 作品著者名, 成立年, 書誌件数, WID										
No.	書名, コレクション略称, 請求記号, 刊写の別, 刊年 or 書写年, 形態, 冊数, 残欠, BID, 書誌種別 画像マーク									
イ	伊勢物語, K, 1, 物語, 1324, 157									
<input type="checkbox"/>	1	絵入新板/伊勢物語/註入, 国文研高乗, 89-268-1~2, 刊, 寛文2, 26. 6×17. 6 cm, 大, 2冊, 200016369 W image ロ								ニ ホ ハ
<input type="checkbox"/>	2	絵入新板/伊勢物語/註入, 都中央特別, 270-12-4, 刊, 寛文2, 2冊, 100190661 M								
<input type="checkbox"/>	3	絵入新板/伊勢物語/註入, 都中央特別, 270-12-5, 刊, 1冊, 100190662 M								
<input type="checkbox"/>	4	絵入新板/伊勢物語/註入, 都中央特別, 270-12-6, 刊, 2冊, 100190663 M								
<input type="checkbox"/>	5	絵入新板/伊勢物語/註入, 都中央特別, 270-12-7, 刊, 2冊, 100190664 M								
<input type="checkbox"/>	6	絵入新板/伊勢物語/註入, 都中央特別, 270-12-8, 刊, 2冊, 100190665 M								
<input type="checkbox"/>	7	伊勢物語, 宣長記念, 刊, 寛文2, 1冊, 25. 7×18. 1 cm, 66丁, 1141420 K								
<input type="checkbox"/>	8	絵入新板/伊勢物語/註入, 神戸大小林, K913 32 I 1-2, 刊, 2冊, 26 cm, 2028128 K								
伊勢物語/註, K, 1, 注釈, 1, 92864										
<input type="checkbox"/>	9	陽明文庫, 55-1-7, E1847, 写, 1冊, 100024599 M								

書誌詳細を確認したい場合、目的の行をクリックする。

もしくは、目的の行の左端にある□をクリックして✓を入れてから〔書誌詳細〕をクリックする（複数選択可・複数著作をまたぐことも可）。

どのような書誌から優先して調べていくか（一覧表示情報の範囲で）。

- イ) 著作情報が合致しているもの
- ロ) 本文画像がDB上ですぐ閲覧できるもの（image アイコンが表示されている）
- ハ) 残欠に目的とする巻次が含まれているもの
- 残欠表示がなければなるべく冊数の多いもの

※著作の特定だけでなく同版資料を探したい場合は以下も考慮する

- ニ) 刊写の別が合致しているもの
- ホ) 刊年 or 書写年が合致しているもの

4) 詳細画面の見方

○著作詳細

【著作詳細】

戻る 検索画面

該当件数：1件（-1件目）

全選択

全解除

書誌詳細

著作URL：http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_W_36873

著作ID	36873
統一書名	死霊解脱物語聞書（しりょうげだつものがたりききがき）
巻冊	二巻二冊
別書名	【1】祐天和尚勸化／死霊解脱物語（ゆうてんおしょうかんげ／しりょうげだつものがたり）
分類	仮名草子
著者	残寿
成立年	元禄三刊
著作注記	〈備〉日本古典文学大辞典に解説あり。
国書所在	【写】東大（天保六写一冊），東洋大哲学堂，大橋【版】＜元禄三版＞国会，大正，東北大狩野，秋田，岩瀬，米沢興譲，彰考，茶図成實，吉田幸一，〔補遺〕竜谷，上田花月＜正徳二版＞国会，金沢大，京大，東大，浅野，栗田
著作種別	和古書
国書	『国書総目録』所収，1

No.	書名，コレクション略称，請求記号，刊写の別，刊年 or 書写年，形態，冊数，残欠，BID，書誌種別 画像マーク
<input type="checkbox"/> 1	死霊解脱物語聞書，国文研，ナ4-403-1~2，刊，元禄3，大，2冊，200006651 W
<input type="checkbox"/> 2	死霊解脱物語聞書，北海学園北駕，16-18-3，E998，写，1冊，100002533 M
<input type="checkbox"/> 3	死霊解脱物語聞書，八戸図，図一五 五五 一~二，写，明和8，2冊，23.5×17.1，2483241 K

書誌検索結果一覧と同じ操作で関連する書誌の詳細を確認することができる。

手元の資料をどうやって照合するか

あ) 書名（統一書名／別書名）は合致するか

い) 巻冊（構成）は合致するか

出版や書写により巻次表記は変動したり省略されたりするし、冊数も変動する。

う) 著者は合致するか

別名（筆名・法名・雅号など）に注意。

例) 滝沢／馬琴 ⇒ 曲亭／馬琴、曲亭／主人、著作堂 等々

※著者名をクリックすると著者詳細および該当著者の著作一覧へ移動する。

え) 成立年は適当か

あくまでも著作としての成立を示していることに注意。

初版の資料も後年の再版された資料も著作としては同じもの。

著作の情報だけでは照合が不十分 ⇒ 本文画像を含む書誌情報と照合する

○書誌詳細

【書誌詳細】戻る検索画面

該当件数：1件（1-1件目）

統一書名, 国書レコードか否か, 国書内同名異書連番, 分類, 作品著者名, 成立年, 書誌件数, WID
死霊解脱物語聞書, K, 1, 仮名草子, 残寿, 元禄三刊, 31, 36873

書誌URL : http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_B_200006651

書誌ID	200006651
記載書名	死霊解脱物語聞書(しりょうげだつものがたりききがき), 内 新板/死霊解脱物語(しんばん/しりょうげだつものがたり), 外 新板/死霊解脱物語(しんばん/しりょうげだつものがたり), 外 死霊物語(しりょうものがたり), 柱
刊写の別	刊
出版事項	山形屋/吉兵衛 (やまがたや/きちべえ) (江戸), 元禄3
形態	大, 2冊
所蔵者	国文研, 和古書
和古書請求記号	ナ4-403-1~2
画像データ	1冊 2冊 ※翻刻・掲載について
請求票出力	請求票

本文画像が公開されている場合、画像データ欄をクリックするとビューワーを開きます。

手元の資料とどうやって照合するか

- ア) 記載書名（資料に書かれている書名）および記載箇所が合致するか
- イ) 出版事項にある書肆（書店）名・出版地・刊年が合致するか
- ウ) 形態（書型、寸法）が合致するか

・実際に本文が合致するか読み比べる

古典籍 DB で公開されている本文画像と読み比べる

国立国会図書館デジタルコレクション等で本文画像と読み比べる

国文研閲覧室で閲覧できるマイクロフィルムと読み比べる（ILL 複写可）

古典籍 DB に掲載されている所蔵者を訪ねて原本と読み比べる

近現代の複製・翻刻資料を NACSIS-CAT 等で探して読み比べる

→著作レコードの『国書総目録』所在の活字翻刻・謄写・複製の情報を利用する。

明治～昭和前期頃までに刊行された活字翻刻等が掲載されている。

国立国会図書館デジタルコレクションで公開できるものが少なくない。

国文学研究資料館 和古書目録の作成

1. 和古書目録書誌レコード作成例（別紙1）

国文学研究資料館日本古典籍書誌レコード作成要領に基づき、和古書目録を作成します。

2. 参考図書（別紙2）

和古書目録（含む著作典拠ファイル・著者典拠ファイル）作成に利用している参考図書のリストです。

和古書

*は該当に○

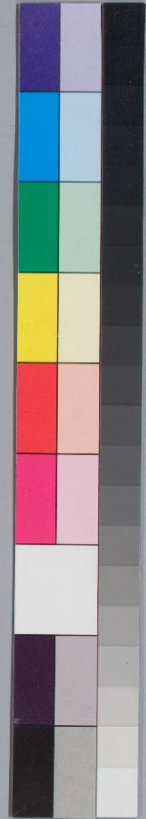
cid		3045000		wid		2277830		preno		1		ppreno		cpreno			
統一書名表記		データベースに著作がない場合のみ記入する															
"よみ		2.1.2 DBを検索し記入															
統一著者名(よみ)		preno 作業用番号(任意) ppreno 子レコードの場合、親のpreno cpreno 子レコードのpreno															
記載書名	1 表記	祇王祇女／勸闇風葉篇												種別	外		
	よみ	ぎおうぎによ／かんせんふうようへん												種別			
	2 表記	勸闇風葉篇												種別	内・目・尾		
	よみ	かんせんふうようへん												種別			
	3.4 記	風葉篇												種別	柱		
	よみ	ふうようへん												種別			
	4 表記													種別			
	よみ													種別			
	5 表記													種別			
	よみ													種別			
	6 表記													種別			
	よみ													種別			
記載著者	1 著者名	臥仙子／文坡								役割	撰		伝	部編等			
	3.5 著者名									役割			伝	部編等			
	3 著者名	他等								役割			伝	部編等			
*書写・出版事項	1書肆〈地名〉or書写者〈地名〉 複数は、で繰り返し	河南／四郎兵衛〈皇都〉，文臺屋／多兵衛〈皇都〉，梅村／市兵衛〈皇都〉，藤屋／東七〈皇都〉，銭屋／新助〈皇都〉，永田／伊助〈皇都〉															
	刊年or書写年	明和4															
	部編等																
	2書肆〈地名〉or書写者〈地名〉 複数は、で繰り返し																
	刊年or書写年																
	部編等																
* (刊) / 写 / 混	3.2		卷数		卷之一～五				3.6		叢書巻号表示						
冊数	3.9		5		冊	残欠		3.11				3.12					
形態(丁数, 寸法, 紙型)	25. 7×18. 0cm, 大																
和古書メディア表 原資料請求記号	ナ	4	0	8	4	2	0	0	0	1	—	0	0	0	5	付録	
登録番号	171180-171184 付録																
備考	* 書誌構造	(単独(子書誌) / 叢書 / 合綴(取り合せ本) / 合刻・合写															
注記	注記は裏面に項目別あり、 そちらに記入																

[illegible]





千載叙夫人又自前頤龍寺
祇園精舍鐘聲也有諸行無常
之響也沙羅雙樹花色也有盛
者必衰之理也驕者不久也唯
如春霄一刻旁猛者可滅也偏
似秋風一點露也遐問異朝羸
秦有趙高前漢有王莽後梁有
周伊李唐有祿山通尋我朝義





風葉篇余

也覽者以^ニ通俗^ナ莫^ゾ蔑^ラ如^ニ云爾

明和乙酉初冬下旬

題



將^ニ雨^ノ言^フ題^ヲ 赤蘿洞摩訶真人

勸聞風葉篇惣目錄

卷之一

叙^{シテ}尊^ニ給^フ孤獨園說法^ノ 諸菩薩阿羅漢聞法 極樂淨土功德莊嚴 稱名行者拱取不捨 金毛十尾老狐因緣 加賀國佛原之來由 林間煖酒三人仕丁 時光圍棋不動勅使

勸聞風葉篇惣目錄終

木曾義仲起兵北國
入道相國熱病薨去
諸國源氏亂入帝都
平家供安德帝退都
行真法皇創長講堂
祇王祇女佛閑往生

勸聞風葉篇卷之一

皇京 臥仙子 文坡 撰

叙尊給孤獨園說法并諸菩薩阿羅漢聞法
其時釋迦牟尼世尊舍衛國祇樹給孤獨園二在レマス
大比丘衆千二百五十人佛ヲ圍繞レ奉ル皆コレ大
阿羅漢ニシテ大衆ノ爲ニ知識ト尊敬セラルハ所謂
長老舍利弗摩訶目犍連摩訶迦葉摩訶訶延摩訶
俱絺羅離婆多周利槃陀伽難陀阿難陀羅睺羅憍梵
波提賓頭盧頗羅隴迦留陀夷摩訶劫賓那薄拘羅阿
菟摩駄伽クノ如キ諸大弟子ナラビニ菩薩摩訶薩ニ

国文学研究資料館
71180
天保22.3.26

酒諦妙證

珠

珠貫

酒

芥不月

不龍了了

天明七丁末二月十九日

小方村立蓮寺

願龍寺

新龍寺受取

持主 片貝山功

勸聞風葉篇卷之一終

安永四乙未歲七月求

寶池山立蓮寺敬隨

衛門ヲ五六間取テ打ツケ。小督ヲ肩ニヒツカケ。何處トモナク落失ケリ。



国文学研究資料館
171184
平22.3.26

三寂滅ヲ取ニテル時ニ後白川法皇此由ヲ殿聞マレク
テ祇王祇女佛刀自四人ノ尼今斯ル往生ヲ逐ニモ身歎
ニ依テ憂世ヲ恨ミ人ヲカコチ忽ニ發心シ佛道入レ故也
去ハ有難キ佛縁ニ逢ヒ叔逆ノ遺身ニ連リ忝王弥陀ノ本
願ニ衆ジテ五障ニ從ノ苦ヲ追レ三時ニ六根ヲ清メ一ハ三
九品ノ淨刹ニ到リ今弥陀如來觀勢ノ天士五々ノ聖衆
ノ來迎ヲ得タリ是誠ニ有難キ佛縁也法皇自震等
ヲ以テ四人ノ尼ノ法号ヲ過去帳ニ書寫シ御廻向マシ
メレケル是ブ煩惱即菩提ノ縁由ナル者哉
勸聞風葉篇卷之五終
三連寺

明和四丁亥歲九月吉祥日

願龍寺

堀川通佛光寺下所

河南四郎兵衛

三条通新町東江入所

文堂屋多兵衛

寺町通松原下所

梅村市兵衛

右同町

藤屋東七 梓行

五條通柳馬場東江入所

錢屋新助

醒井通五條上ル所

永田伊助

皇都書林

【I 書誌学・出版・目録】

1	日本古典籍書誌学辞典 / 井上宗雄 [ほか] 編著 東京：岩波書店, 1999.3 19, 626, 71p ; 27cm
2	日本書誌学用語辞典 / 川瀬一馬著 東京：雄松堂書店, 1982.10 18, 333p, 図版[6]p ; 22cm
3	書誌学序説 / 山岸徳平著 東京：岩波書店, 2008.2 vi, 303, 22p ; 19cm. -- (岩波全書セレクション) 注記: 1977年刊の再刊
4	古書のはなし：書誌学入門 / 長沢規矩也著 東京：富山房, 1994.6 2, 4, 196, 6p ; 22cm -- 新装
5	図解書誌学入門 / 長沢規矩也著 東京：汲古書院, 1976.11 106p ; 26cm. -- (図書学参考図録：入門篇；4) 注記: 各種図書の影印あり
6	日本古典書誌学総説 / 藤井隆著 大阪：和泉書院, 1991.4 192p ; 22cm
7	書誌学入門 / 川瀬一馬著；岡崎久司編 東京：雄松堂出版, 2001.12 viii, 307p ; 23cm
8	和本入門 / 橋口侯之介著 [正] 千年生きる書物の世界 / 橋口侯之介著 東京：平凡社, 2005.10 254p ; 20cm. または、東京：平凡社, 2011.9 274p ; 16cm. -- (平凡社ライブラリー；744 . 和本入門) 続 江戸の本屋と本づくり / 橋口侯之介著 東京：平凡社, 2007.10 269p ; 20cm. または、東京：平凡社, 2011.10 298p ; 16cm. -- (平凡社ライブラリー；747 . 和本入門；続)
9	日本書誌学を学ぶ人のために / 廣庭基介, 長友千代治著 京都：世界思想社, 1998.5 206p ; 19cm
10	日本書誌学大系 近世書林板元総覧 / 井上隆明著. -- 改訂増補 武蔵村山：青裳堂書店, 1998.2 920p ; 22cm. -- (日本書誌学大系；76) 新編蔵書印譜 / 渡辺守邦, 後藤憲二編. -- 増訂 立川：青裳堂書店, 2013.10-2014.12 3冊 ; 22cm. -- (日本書誌学大系, 103(1)-103(3)) 近代蔵書印譜 / 中野三敏編 武蔵村山：青裳堂書店, 1984.12-2007.2 5冊 ; 22cm. -- (日本書誌学大系 ; 41(1)-(5)) 赤本黒本青本書誌 / 木村八重子編；赤本以前之部 立川：青裳堂書店, 2009.3 ; 22cm. -- (日本書誌学大系；95(1))ほか
11	書誌学月報別冊 松会版書目 / 柏崎順子編 武蔵村山：青裳堂書店, 2002.10 132p ; 21cm. -- (書誌学月報別冊；10) 注記: 「松会版目録稿1・2・完・補遺」(雲英末雄共編, 日本古書通信816-818・824号, 平成9年7-9月・同10年3月)を増補改訂し、新たに刊記図版を添付した；図版目録: p123-126 →増補松会版書目 / 柏崎順子編 立川：青裳堂書店, 2009.4 256p ; 挿図 ; 22cm. -- (日本書誌学大系；96) 注記: 「松会版書目」(『書誌学月報』別冊10, 平成14年刊)の増補改訂版 赤本黒本青本版心索引(予備版) / 木村八重子編 武蔵村山：青裳堂書店, 1997.6 46p ; 21cm. -- (書誌学月報別冊；1)ほか
12	原典をめざして：古典文学のための書誌 / 橋本不美男著. -- 新装普及版 東京：笠間書院, 2008.3 5, 293p ; 21cm
13	古典籍が語る：書物の文化史 / 山本信吉著 東京：八木書店, 2004.11 iv, 274, 24p, 図版 [4] p ; 22cm
14	江戸の板本：書誌学談義 / 中野三敏著 東京：岩波書店, 1995.12 ix, 299, 51p ; 20cm または、東京：岩波書店, 2010.12 ix, 305, 51p ; 20cm. -- (岩波人文書セレクション)
15	江戸の出版 / 中野三敏監修 東京：ペリかん社, 2005.11 382p ; 22cm 『江戸文学』15・16号特集「江戸の出版」を中心に復刊したもの
16	江戸の本屋さん：近世文化史の側面 / 今田洋三著 東京：日本放送出版協会, 1977.10 206p ; 19cm. -- (NHKブックス；299) または、東京：平凡社, 2009.11 ix, 268p ; 16cm. -- (平凡社ライブラリー；685)
17	出版事始：江戸の本 / 諏訪春雄著 東京：毎日新聞社, 1978.1 222p ; 20cm.
18	書物散策：近世版本考 / 木村三四吾著 東京：八木書店, 1998.10 460p, 図版1枚 ; 22cm. -- (木村三四吾著作集 / 木村三四吾著；3)
19	徳川時代出版者出版物集覧 / 矢島玄亮著 仙台：徳川時代出版者出版物集覧刊行会 仙台：萬葉堂書店 (発売), 1976.8-1976.12 2冊 ; 27cm
20	慶長以来書賣集覧：書籍商名鑑 / 井上和雄編. -- 増訂版 / 坂本宗子増訂 大阪：高尾書店, 1970.12 1冊 ; 22cm
21	享保以後板元別書籍目録 / 坂本宗子編 大阪：清文堂出版, 1982.4 394p ; 22cm
22	享保以後江戸出版書目 / 朝倉治彦, 大和博幸編 新訂版. 京都：臨川書店, 1993.12 612p, 図版[2]p ; 22cm
23	享保以後大阪出版書籍目録 / 大阪図書出版業組合編 復刻版. 東京：龍溪書舎, 1998.5 1冊 ; 22cm
24	日本小説書目年表 / 山崎麓編纂 改訂 / 書誌研究会. 東京：ゆまに書房, 1977.10 15, 858p ; 22cm. -- (書誌書目シリーズ；6)

25	近世書籍研究文献目録 / 鈴木俊幸編 増補改訂. 東京：ペリかん社, 2007.3 798p ; 22cm (『書籍文化史』に補遺あり) →近世・近代初期書籍研究文献目録 / 鈴木俊幸編 東京：勉誠出版, 2014.9 31, 619p ; 22cm. (増補改訂版以後『書籍文化史』第9-15集に掲載の補遺をまとめたもの)
26	書籍文化史 / 鈴木俊幸編 八王子：鈴木俊幸, 2000.2- 冊 ; 21cm
27	古典籍の装幀と造本 / 吉野敏武著 東京：印刷学会出版部, 2006.5 173p ; 16cm. -- (デザイン製本 ; 3)
28	古文書修補六十年：和装本の修補と造本 / 遠藤諦之輔著 初版第7刷 東京：汲古書院, 1996.3 7, 244p, 図版[1], 30p ; 16×22cm
29	和紙文化研究事典 / 久米康生著 東京：法政大学出版局, 2012.10 ix, 437p ; 22cm 注記: 「和紙文化辞典」(わがみ堂1995年刊)の改題増補改訂版
30	古典籍古文書料紙事典：必携 / 穴倉佐敏編著 東京：八木書店, 2011.7 viii, 453, ixp ; 22cm
31	日本の美術 古写本の姿 / 藤本孝一〔著〕 東京：至文堂, 2002.9 98p ; 23cm. -- (日本の美術 ; No. 436) 文書・写本の作り方 / 藤本孝一執筆・編集 東京：至文堂, 2008.6 98p ; 23cm. -- (日本の美術 ; No.505) 書跡・典籍、古文書の修理 / 池田寿〔執筆・編集〕 東京：至文堂, 2006.5 98p ; 23cm. -- (日本の美術 ; No.480)ほか
32	新編和漢古書目録法 / 長澤規矩也著 修 東京：汲古書院, 1979.4 103p ; 21cm
33	國書總目録. -- 補訂版 東京：岩波書店, 1989.9-1991.1 9冊 ; 27cm -- 第1巻 - 著者別索引
34	古典籍総合目録：国書総目録統編 / 国文学研究資料館編 東京：岩波書店, 1990.2-1990.3 3冊 ; 27cm
35	継続資料と和古書・漢籍の組織化：日本目録規則(NCR)1987年版改訂2版第13章および第2・3章の改訂 / 日本図書館協会目録委員会編集 東京：日本図書館協会, 2005.6 112p ; 30cm
36	和本の海へ：豊饒の江戸文化 / 中野三敏著 東京：角川学芸出版 東京：角川グループパブリッシング (発売), 2009.2 239p ; 19cm. -- (角川選書 ; 436)
37	三大編纂物, 群書類従, 古事類苑, 国書総目録の出版文化史 / 熊田淳美著 東京：勉誠出版, 2009.3 315, 13p ; 20cm
38	〈よみほん様式〉考 / 大高洋司監修 東京：ペリかん社, 2009.5 132p ; 21cm. -- (江戸文学 ; 40)
39	版權と報酬 / 市古夏生責任編集 東京：ペリかん社, 2010.5 136p ; 21cm. -- (江戸文学 ; 42)
40	草双紙の世界：江戸の出版文化 / 木村八重子著 東京：ペリかん社, 2009.7 209p, 図版[4]p ; 20cm
41	書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む / 堀川貴司著 東京：勉誠出版, 2010.3 263, 10p, 図版[4]p ; 22cm.
42	本を千年つたえる：冷泉家蔵書の文化史 / 藤本孝一著 東京：朝日新聞出版, 2010.10 215p ; 19cm. -- (朝日選書 ; 870)
43	絵草子屋：江戸の浮世絵ショップ / 鈴木俊幸著 東京：平凡社, 2010.12 262p ; 20cm
44	江戸時代三都出版法大概：文学史・出版史のために / 山本秀樹著 岡山：岡山大学文学部, 2010.2 322p ; 21cm. -- (岡山大学文学部研究叢書 ; 29)
45	古典籍へようこそ：京都府立総合資料館の書庫から / 京都府立大学文学部日本・中国文学科, 京都府立総合資料館編 京都：京都新聞出版センター, 2010.11 156p ; 19cm
46	江戸時代初期出版年表：「天正十九年～明暦四年」 / 岡雅彦〔ほか〕編 東京：勉誠出版, 2011.2 9, 628, 37p, 図版32p ; 27cm
47	和本への招待：日本人と書物の歴史 / 橋口侯之介著 東京：角川学芸出版 東京：角川グループパブリッシング (発売), 2011.6 221p ; 19cm. -- (角川選書 ; 492)
48	和本のすすめ：江戸を読み解くために / 中野三敏著 東京：岩波書店, 2011.10 iv, 260, 4p, 図版 [2] p ; 18cm. -- (岩波新書 ; 新赤版 1336)
49	宮内庁書陵部書庫渉獵：書写と装訂 / 櫛笥節男著 東京：おうふう, 2006.2 239p : 挿図 ; 21cm
50	江戸文化再考：これからの近代を創るために / 中野三敏著 東京：笠間書院, 2012.7 vi, 239p, 図版 [6] p : 挿図 ; 19cm. -- (古典ルネッサンス)
51	幕府のふみくら：内閣文庫のはなし / 長澤孝三著 東京：吉川弘文館, 2012.8 ix, 278p : 挿図 ; 20cm
52	図書大概 / 大沼晴暉著 東京：汲古書院, 2012.11 12, 469p ; 22cm
53	なにわ古書肆鹿田松雲堂五代のあゆみ / 四元弥寿著 ; 飯倉洋一〔ほか〕編 大阪：和泉書院, 2012.11 xvi, 250p, 図版 [4] p : 挿図 ; 20cm. -- (上方文庫 ; 39)
54	図書学入門 / 藤森馨著 東京：成文堂, 2012.3 v, 156p ; 22cm
55	近世出版の板木研究 / 金子貴昭著 京都：法藏館, 2013.2 vi, 318p : 挿図 ; 22cm
56	古典籍研究ガイダンス：王朝文学をよむために / 人間文化研究機構国文学研究資料館編 東京：笠間書院, 2012.6 xv, 445p : 挿図 ; 21cm

57	江戸の本づくし：黄表紙で読む江戸の出版事情 / 鈴木俊幸著 東京：平凡社, 2011.1 244p ; 挿図 ; 18cm. -- (平凡社新書 ; 566)
58	略縁起集の世界：論考と全目録 / 中野猛著 ; 山崎裕人, 久野俊彦編 東京：森話社, 2012.1 461p ; 22cm
59	図説よりすぐり国立国会図書館 = THE BEST OF NATIONAL DIET LIBRARY'S DIGITAL LIBRARY COLLECTIONS : 竹取物語から坂本龍馬直筆まで / 国立国会図書館編 東京：勉誠出版, 2014.10 143p ; 26cm
60	元禄・正徳板元別出版書総覧 / 市古夏生編 東京：勉誠出版, 2014.11 748, 77p ; 22cm
61	書物學 = Bibliology / 勉誠 企画・編集 [東京] : [勉誠出版], 2014- 冊 ; 26cm
62	書籍流通史論序説 / 鈴木俊幸著 東京：勉誠出版, 2012.6 11, 448, 29p ; 22cm
63	出版文化史の東西：原本を読む楽しみ = Aspects of publishing history in the East & the West / 徳永聡子編著 東京：慶應義塾大学出版会, 2015.4 iv, 234p ; 挿図 ; 19cm
64	和書のさまざま / 人間文化研究機構国文学研究資料館編 ; 中村康夫監修 大阪：和泉書院, 2015.3 48p ; 21cm + CD-ROM(1枚 12cm)
65	和本リテラシーニュース = The news of wahan literacy / 日本近世文学会編 [藤沢] : 日本近世文学会, 2015- 冊 ; 21cm 注記: 電子版あり : http://www.kinseibungakukai.com/doc/wabonichiran.html (2019.6.6確認)
66	シリーズ<本の文化史> 読書と読者 / 横田冬彦編. -- 東京：平凡社, 2015.5 332p ; 20cm. -- (シリーズ<本の文化史>; 1) 書籍の宇宙：広がりと体系 / 鈴木俊幸編 東京：平凡社, 2015.5 334p ; 20cm. -- (シリーズ<本の文化史>; 2) 書籍文化とその基底 / 若尾政希編. -- 東京：平凡社, 2015.5 356p ; 20cm. -- (シリーズ<本の文化史>; 3) 出版と流通 / 横田冬彦編. -- 東京：平凡社, 2015.5 350p ; 20cm. -- (シリーズ<本の文化史>; 4)
67	連歌の史的研究 / [福井久蔵著] ; 廣木一人編 東京：クレス出版, 2011.1 2冊 ; 22cm. -- (福井久蔵和歌連歌著作選 / [福井久蔵著] ; 廣木一人編・解説 ; 4-5)
68	医学書のなかの「文学」：江戸の医学と文学が作り上げた世界 / 福田安典著 東京：笠間書院, 2016.5 276p ; 21cm
69	海を渡ってきた漢籍：江戸の書誌学入門 / 高橋智編 東京：日外アソシエーツ, 2016.6 224p ; 19cm
70	日本古典書誌学論 / 佐々木孝浩著 東京：笠間書院, 2016.6 vii, 525, 27p ; 22cm
71	和書のさまざま：(国文学研究資料館通常展示) → https://www.nijl.ac.jp/event/exhibition/ 当該展示のページ (2019.6.6確認)
72	古筆鑑定必携：古筆切と極札 / 村上翠亭 [ほか] 執筆. -- 京都：淡交社, 2004.3 143p
73	江戸の古本屋：近世書肆のしごと / 橋口侯之介著. -- 東京：平凡社, 2018.12 335p

【Ⅱ 所蔵目録・解題】

古典籍を多く所蔵している図書館・資料館等では、所蔵目録・解題等を古くから冊子体で作成してきた。現在ではwebサイトで公開されていることも多い。

また、そういった目録類の情報の中には、国文学研究資料館「日本古典籍総合目録データベース」において公開されているものもある。

74	書誌学展図録：慶應義塾大学附属研究所斯道文庫開設50年記念 / 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫編 東京：慶應義塾大学附属研究所斯道文庫, 2010.12 11, 209p ; 30cm. または、図説書誌学：古典籍を学ぶ / 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫編 東京：勉誠出版, 2010.12 8, 213p 挿図 ; 30cm 注記: 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫開設50年記念
75	鴻山文庫蔵能楽資料解題 / 野上記念法政大学能楽研究所編 東京：野上記念法政大学能楽研究所, 1990.3- 2014.3 3冊 ; 22cm

【Ⅲ 各分野の辞書など】

76	日本古典文学大辞典 / 日本古典文学大辞典編集委員会編集 東京：岩波書店, 1983.10-1985.2 6冊 ; 27cm
77	和歌文学大辞典 / 伊藤嘉夫 [ほか] 編 東京：明治書院, 1962.11 2冊 ; 22cm -- [本編]; 付録
78	和歌大辞典 / 犬養廉 [ほか] 編 東京：明治書院, 1986.3 1201p ; 27cm

79	俳文学大辞典 / 尾形仂 [ほか] 編 東京：角川書店, 1995.10 10, 1184p, 図版[16]p ; 27cm
80	俳諧大辞典 / 伊地知鐵男[ほか]編. -- 9版 東京：明治書院, 1965.3 1008p ; 22cm
81	連歌資料のコンピュータ処理の研究 / 国文学研究資料館編 東京：明治書院, 1985.3 614p ; 27cm. -- (国文学研究資料館共同研究報告 ; 3)
82	狂歌書目集成 / 菅竹浦撰 京都：臨川書店, 1977.6 231p ; 22cm 注記: 星野書店昭和11年刊の複製
83	読本 (よみほん) 事典：江戸の伝奇小説 / 国文学研究資料館, 八戸市立図書館編 東京：笠間書院, 2008.2 iv, 178p, 図版8p ; 22cm
84	往来物解題辞典 / 小泉吉永編著 東京：大空社, 2001.3 2冊 ; 27cm -- 解題編,図版編 →Web上では、「往来物倶楽部」でデータ公開中（利用条件あり、全文検索は利用登録制）
85	黄表紙外題索引 / 朝倉無声編著. -- 増補 / 三村竹清増補；鈴木重三補訂 東京：大屋書房, 1964.8 68丁 ; 24cm
86	歌舞伎・浄瑠璃外題よみかた辞典 / 野島寿三郎編 東京：日外アソシエーツ 東京：紀伊國屋書店(発売),1990.6 xiv, 431, 40p ; 22cm
87	邦楽百科辞典：雅楽から民謡まで / 音楽之友社 [編] 東京：音楽之友社, 1984.11 1076p, 図版[8]p ; 27cm
88	日本音楽大事典 / 平野健次, 上参郷祐康, 蒲生郷昭監修 東京：平凡社, 1989.3 1034, 112, 46p ; 27cm
89	角川茶道大事典 / 林屋辰三郎 [ほか] 編 東京：角川書店, 1990.5 2冊 ; 27cm -- 本編;資料・索引編
90	原色浮世絵大百科事典 / 原色浮世絵大百科事典編集委員会編 東京：大修館書店 11冊 ; 38cm
91	佛書解説大辞典 / 小野玄妙編纂. -- 改訂版 東京：大東出版社, 1964.5-1988 15冊 ; 27cm
92	日本仏教典籍大事典 / 金岡秀友 [ほか編] 東京：雄山閣, 1986.11 7, 551, 164p ; 27cm
93	禪學大辭典 / 禪學大辭典編纂所編. -- 新版 東京：大修館書店, 1985.11 1冊 ; 27cm
94	神道大系 / 神道大系編纂会編 東京：神道大系編纂会, 1977-2006.11 冊 ; 23cm -- 總目録
95	續神道大系 / 神道大系編纂會編 東京：神道大系編纂會, 1995.3-2007.3 51冊 ; 23cm -- 總目録
96	神道書籍目録 / 加藤玄智編 京都：臨川書店, 1974 2冊 ; 27cm 注記: 同文館から昭和18年に刊行(初版:昭和13年刊)されたものと、その後 姉妹編として明治神宮社務所から昭和28年に刊行されたものを おのおの上・下巻として複製したもの
97	中国学芸大事典 / 近藤春雄著 東京：大修館書店, 1978.10 5, 1000p ; 27cm
98	洋学史事典 / 日蘭学会編 東京：雄松堂出版, 1984.9 787, 82, 35p ; 27cm. -- (日蘭學會學術叢書 ; 第6)
99	藩史大事典 / 木村礎, 藤野保, 村上直編 東京：雄山閣出版, 1988.7-1990.6 8冊 ; 27cm
100	明治前日本醫學史 / 日本学士院日本科学史刊行会編. -- 増訂復刻版 東京：日本古医学資料センター 東京：井上書店 (発売),1978.6 5冊 ; 22cm -- 第1巻 - 第5巻 注記: 日本学術振興会昭和30-39年刊の複製；復刻にあたり各巻に人名総索引,物件総索引追加
101	明治前日本數學史 / 日本学士院編 東京：岩波書店, 1983.11 5冊 ; 22cm
102	日本漢方典籍辞典 / 小曾戸洋著 東京：大修館書店, 1999.6 viii, 469p ; 23cm
103	近世武道文献目録 / 入江康平編 東京：第一書房, 1989.2 600, 24p, 図版8枚 ; 22cm
104	囲碁百科辞典 / 林裕編著. -- 改訂増補 東京：金園社, 1983.12 649p, 図版4枚 ; 22cm
105	上毛古書解題 / 篠木弘明著 東京：歴史図書社, 1979.1 18, 46, 486p ; 20cm
106	江戸文学地名辞典. -- 新装普及版 東京：東京堂出版, 1997.9 530p ; 21cm
107	人情本事典：江戸文政期、娘たちの小説 / 人間文化研究機構国文学研究資料館編 東京：笠間書院, 2010.1 xii, 226, 5p, 図版 [4] p; 23cm
108	浮世草子大事典：江戸時代の社会・風俗がわかる / 「浮世草子大事典」編集委員会編 東京：笠間書院, 2017.10 ix, 1010p ; 27cm
109	密教辞典 / 佐和隆研編 京都：法藏館, 1975.2 vi,730,176p ; 23cm
110	日本仏家人名辞書 / 鷲尾順敬編纂 ;新装版. -- 増訂. -- 東京美術, 1973.9 364, 1319, 181p ; 22cm
111	広説佛教語大辞典/ 中村元著:: セット-別巻:索引. -- 東京書籍, 2001.6 4冊 ; 27cm

112	字典かな：写本をよむ楽しみ / 笠間影印叢刊刊行会編；：新装版.-- 笠間書院, 2003.8. 97p；21cm
113	仮名変体集 / 伊地知鉄男編.-- 増補改訂.-- 新典社, 1975.-- (影印本シリーズ). 63p；19cm
114	草書検索字典 / 江守賢治編・書.-- 三省堂, 2007.12. 22, 848, 37p, 図版 [2] p；22cm
115	能・狂言事典 / 西野春雄, 羽田昶編集委員.-- 新版.-- 平凡社, 2011.1 609p, 図版 [8] p；22cm
116	能楽大事典 / 小林責, 西哲生, 羽田昶著.-- 筑摩書房, 2012.1 v, 1106p；22cm
117	くずし字辞典 / 東京手紙の会編.-- 思文閣出版, 2000.4. 24, 1359, 93p；22cm
118	日本の伝統色：その色名と色調 / 長崎盛輝著.-- 新版.-- 青幻舎, 2006.6 327p, 図版45枚；15cm

【IV 人物・人名：一般】

119	国書人名辞典 / 市古貞次 [ほか] 編 東京：岩波書店, 1993.11-1999.6 5冊；27cm
120	日本人名大事典 / 平凡社 [編]. -- 復刻版 東京：平凡社, 1979.7 冊；27cm
121	名乗辞典：付録・難訓姓氏辞典 / 荒木良造編 東京：東京堂出版, 1959.3 306p；19cm
122	日本人名辭典 / 芳賀矢一編.-- 3版 京都：思文閣, 1983.8 2,2,3,6,95,83,13,1174p；19cm 注記: 大正3年9月刊の複製(3版)；名順・姓氏索引・字画索引あり
123	人物レファレンス事典 / 日外アソシエーツ編集部編.-- 新訂増補 東京：日外アソシエーツ 東京：紀伊國屋書店 (発売), 1996.9- 冊；22-27cm
124	系図纂要.-- 新版 東京：名著出版, 1990- 冊；22cm 注記: 名著出版 1973-1977年刊の翻刻
125	宮廷公家系図集覧 / 近藤敏喬編 東京：東京堂出版, 1994.9 19, 691, 12p；23cm
126	名家伝記資料集成 / 森繁夫編；中野莊次補訂.-- 再版 京都：思文閣出版, 1991.12 5冊；22cm
127	公卿補任 / 黒板勝美編輯.-- 新訂増補 東京：吉川弘文館, 2000.12-2001.5 6冊；23cm.-- (國史大系/ 黒板勝美, 國史大系編修會編；第53巻-第57巻, 別巻1) -- 第1篇：新装版 - 索引：新装版-- 第1篇：新装版 - 索引：新装版
128	公卿補任図解総覧：大宝元年(701)～明治元年(1868) / 所功監修；坂田桂一著 東京：勉誠出版, 2014.3 16, 170, 36p；31cm
129	公卿辞典 / 坂本武雄編；坂本清和補訂.-- 三訂増補 東京：国書刊行会, 1986.5 107, 183, 97p；22cm 注記: 付: 年表・公卿諸家系図・公卿宮位宮職一覧表
130	公卿人名大事典 / 野島寿三郎編 東京：日外アソシエーツ 東京：紀伊國屋書店 (発売), 1994.7 xii, 1034p；22cm
131	神道人名辞典 / [神社新報社編]. -- 平成三年改訂版 東京：神社新報社, 1991.10 660, 48p；27cm
132	和学者総覧 / 國學院大學日本文化研究所編 東京：汲古書院, 1990.3 xii, 809, 282p；22cm
133	鎌倉・室町人名事典 / 安田元久編 東京：新人物往来社, 1985.11 670p；23cm
134	江戸文人辞典：国学者・漢学者・洋学者 / 石山洋, 鈴木瑞枝, 南啓治編 東京：東京堂出版, 1996.9 3,419p；22cm
135	国学者伝記集成 / 大川茂雄, 南茂樹共編 東京：日本図書センター, 1979.10 3冊；22cm
136	漢學者傳記及著述集覧 / 小川貫道著 東京：名著刊行会, 1970.2 2, 8, 44, 781, 12p, 図版[14]p；22cm 注記: 監修者: 小柳司気太；関書院昭和10年刊の複製
137	近世漢學者傳記著作大事典 / 關儀一郎, 關義直共編.-- 4版 [出版地不明]：関義直 東京：琳琅閣書店: 井上書店 (発売), 1981.7 29, 33, 573, 100, 44p；27cm
138	漢文學者總覧 / 長澤孝三編.-- 改訂増補 東京：汲古書院, 2011.10 4, 495, 173p；22cm
139	狂歌人名辞書 / 狩野快庵編 京都：臨川書店, 1977.6 273p；22cm 注記: 広田書店昭和3年刊の複製
140	三百藩藩主人名事典 / 藩主人名事典編纂委員会編 東京：新人物往来社, 1986.6-1987.4 4冊；22cm
141	明治維新人名辞典 / 日本歴史学会編 東京：吉川弘文館, 1981.9 8, 1096, 8p；23cm
142	角川日本姓氏歴史人物大辞典 / 竹内理三 [ほか] 編 東京：角川書店, 1989-

【V 人物・人名：特定地域】

地方の人名はそれぞれの地方で出版されている辞典類が詳しい。

143	新編庄内人名辞典 / 庄内人名辞典刊行会編 鶴岡：庄内人名辞典刊行会, 1986 781p ; 20cm
144	高知県人名事典 / 「高知県人名事典新版」刊行委員会編. -- 新版 [高知] : 高知新聞社 高知 : 高知新聞企業(発売), 1999.9 31,9 72p;27cm
145	仙臺人名大辭書 / 菊田定郷著作. -- 復刻版 仙台 : 仙台郷土研究会 仙台 : 宝文堂(発売), 2000.5 20,58, 172, 1146,276,22p;22cm注記: 底本: 仙臺人名大辭書刊行会, 昭和8年刊
146	近世防長人名辞典 / 吉田祥朔著. -- 増補 徳山 : マツノ書店, 1976.6 347,8p ; 22cm
147	桑名人物事典 / 伊藤信夫編 津 : 三重県郷土資料刊行会, 1971.8 16, 276p ; 26cm. -- (三重県郷土資料叢書 ; 第47集)
148	最新歌舞伎大事典 / 神山彰, 丸茂祐佳, 児玉竜一編集委員 東京 : 柏書房 , 2012.7, 570p ; 27cm

【VI 字典】

149	大漢和辞典 / [諸橋轍次著] ; 鎌田正, 米山寅太郎編 東京 : 大修館書店, 1990.5-2000.4 15冊 ; 27cm 注記 : 補巻 2000年4月刊
150	角川新字源 / 小川環樹, 西田太一郎, 赤塚忠編. -- 改訂版 東京 : 角川書店, 1994.11 128, 1342p ; 18cm
151	全訳漢辞海 / 佐藤進 [ほか] 編 ; 戸川芳郎監修 東京 : 三省堂, 2000.1 1741p ; 19cm
152	五體字類 / 法書会編輯部編著 ; 高田竹山監修. -- 改訂第4版 東京 : 西東書房, 2014.1 9, 622, 35, 14, 68p ; 20cm
153	必携篆書印譜字典 / 蓑毛政雄編 東京 : 柏書房, 1991.11 527,62p ; 20cm
154	西東篆書字典 / 高澤翠雲編. -- 改訂版 東京 : 西東書房, 2014.1, 305, 35p ; 13cm
155	異体字解説字典 / 「難字大鑑」編集委員会編 ; 山田勝美監修 東京 : 柏書房, 1987.4, 14,672p ; 16cm
156	日本難字異体字大字典 / 日本難字異体字大字典編集委員会編 ; 井上, 辰雄監修 東京 : 遊子館 , 2012.1, 2冊;27cm (2017年刊のコンパクト版あり)
157	国字の字典 / 菅原義三編 ; 飛田良文監修. -- 新装版 付増補・索引 東京 : 東京堂出版, 10,195p ; 21cm
158	くずし字用例辞典 / 児玉幸多編. -- 普及版 新装板 東京 東京堂出版, 2008.5, 1305, 63p ; 19cm
159	くずし字解説辞典 / 児玉幸多編. -- 増補版 東京 近藤出版社, 1993.2, 336, 61p ; 19cm

国文学研究資料館 日本古典籍書誌レコード作成要領

第1次 2004.12.1

2017.1.5 改

(2011.12 和古書データ使用コード等挿入)

1. 通則	p. 2	3. 6. 1 巻次の記入	15
1. 1 対象となる資料の範囲	2	3. 6. 2 原欠の記入	16
1. 2 データ項目	3	3. 7 書写事項	16
1. 3 情報源	3	3. 7. 1 書写者	16
1. 4 レコード作成の単位	3	3. 7. 2 書写地	17
1. 5 記録の方法	5	3. 7. 3 書写年	17
1. 5. 1 使用文字	5	3. 7. 4 複数の書写事項	17
1. 5. 2 よみの表記	5	3. 8 出版事項	18
1. 5. 3 判読不可能文字および推読文字	5	3. 8. 1 出版者	18
1. 5. 4 補記	5	3. 8. 1. 1 複数の書肆名	18
2. データベースの特徴	p. 5	3. 8. 2 出版地	18
2. 1 著作とのリンク	5	3. 8. 3 出版年	19
2. 1. 1 典拠コントロール	5	3. 8. 3. 1 出版年としての序跋年	19
2. 1. 2 著作とのリンク	6	3. 8. 4 複数の出版事項	19
2. 1. 3 統一書名	6	3. 9 数量	20
2. 1. 4 著作の著者	6	3. 10 形態的事項	20
2. 1. 4. 1 統一著者名	7	3. 10. 1 形態的事項の記入	21
2. 1. 4. 2 作品著者名	7	3. 11 残欠表示	22
2. 2 書誌構造	8	3. 12 叢書巻号表示	22
3. データ記入要領	p. 9	3. 13 注記	22
3. 1 キーワード	9	3. 13. 1 系統注記	23
3. 2 刊・写の別	9	3. 13. 2 著者に関する注記	23
3. 3 標目書名	9	3. 13. 3 出版に関する注記	24
3. 4 記載書名	9	3. 13. 4 書写に関する注記	24
3. 4. 1 記載書名のよみ	9	3. 13. 5 序跋注記	25
3. 4. 2 書名中の区切り記号	10	3. 13. 6 形態注記	25
3. 4. 3 不明な部分のある書名	10	3. 13. 7 奥書・識語注記	26
3. 4. 4 誤記、誤植、誤刻のある書名	10	3. 13. 8 書入れ・校合注記	26
3. 4. 5 記載箇所	10	3. 13. 9 伝来注記	27
3. 4. 6 複数の書名	11	3. 13. 10 叢書注記	27
3. 4. 7 叢書・合綴等の資料全体の書名	12	3. 13. 11 一般注記	27
3. 5 記載著者名	12	3. 13. 12 備考	28
3. 5. 1 著者名の記入	13	3. 14 業務メモ	28
3. 5. 2 著者役割	13	付表1 和古書目録書誌レコードデータ項目	29
3. 5. 2. 1 複数の役割表示	14	付表2 和古書目録書誌レコードデータ採録情報源	30
3. 5. 3 複数の著者	14	付表3 叢書・合綴等のデータ項目ふり分け表	31
3. 5. 3. 1 複数の著者の省略	14	付表4 叢書・合綴等のデータ構造及びデータの作成と表示	32
3. 5. 4 著者の推定	14	【付録】 和古書メディア情報の記入について	33
3. 5. 5 部編等の注記	14		
3. 5. 6 国名・王朝名	15		
3. 6 巻次	15		

1. 通則

この作成要領は、当館が所蔵する和古書の書誌事項を採録し、日本古典籍総合目録データベースの書誌ファイルの入力データ（以下和古書書誌レコードと呼ぶ）を作成するためのものである。以下、和古書書誌レコード作成の対象となる資料の範囲および記述に関する一般原則を規定する。

1. 1 対象となる資料の範囲

和古書書誌レコードは次に示した範囲の資料について作成する。

- (1) 原則として、慶応4年以前に成立した著作の古典籍（写本・版本）を対象とする。
- (2) 著作の成立年代が不明であっても、慶応4年以前と考えられるもの、また著作の一部がそれまでに成立しているもの、例えば、幕末の刊行で明治に完結したものは対象とする。
- (3) 上記（1）（2）に該当する著作に対応する資料のうち、和古書は明治期の整版・木活字本等および明治以降に書写した写本（新写本）についても対象とする。なお、明治期の近代的印刷技法・出版によって大量出版されたもの（活版・複製本等）は含まない。
- (4) 日本人の著作は日本語以外でも含む。ただし、日本以外で改修・注・訳等を加えて出版したものは対象としない。日本在住の外国人による著作は、日本において日本語で出版された場合は含む。
- (5) 原則として、書籍を対象とするが、その他の特殊形態資料もできる限り含める。

和古書目録データベースの資料の範囲

- (1) 原則として、和古書は慶応4年以前、漢籍（中国・朝鮮の古書）は1912年以前に成立した著作の古典籍（写本・版本）を対象とする。
 - (2) 著作の成立年代が不明であっても、和古書は慶応4年以前、漢籍（中国・朝鮮の古書）は1912年以前と考えられるもの、また著作の一部がそれまでに成立しているもの、例えば、幕末の刊行で明治に完結したものは対象とする。
 - (3) 上記（1）（2）に該当する著作に対応する資料のうち、和古書および和刻本漢籍は明治期の整版・木活字本等および明治以降に書写した写本（新写本）について対象とする。また、漢籍は1912年以降の整版本・木活字本等および鈔本についても対象とする。なお、明治期、清朝末期の近代的印刷技法・出版によって大量出版されたもの（活版・複製本等）は含まない。
- （漢籍について追加、（4）（5）は上記と同）

1. 2 データ項目

和古書書誌レコードのデータ項目は付表1「和古書目録書誌レコードデータ項目」のとおりである。

1. 3 情報源

各データ項目の情報源は付表2「和古書目録書誌レコードデータ採録情報源」のとおりである。

1. 4 レコード作成の単位

和古書書誌レコードの作成は、原則として書誌的に他と区別されるひとまとまりの資料（個別資料）ごとに行う。ただし、ひとまとまりの資料の中に複数の著作に対応する書誌が含まれる場合は、全体に対応するレコードに加え、各々の書誌についてもレコードを作成する。

*以下の書誌構造で示す。

- | | |
|----|---|
| 叢書 | 複数の著作を総合して収録した著作で、全体としての書名を有する |
| 合写 | 複数の著作が一つにまとめて書写されたもの
書写の時期は同時または近い時期とする
紙背文書のように、表裏の書写時期が異なる場合は、合綴扱いとする |
| 合刻 | 複数の著作が一つにまとめて刊行されたもの |
| 合綴 | もともと別のまとまりの資料が、後に綴じあわされたもの |

- (1) ひとまとまりの資料が1つの著作に対応している場合、そのまとまり全体をレコード作成の単位とする。

〔例〕 出雲国風土記
・文化3年刊 2冊
(この場合、1件のレコード作成を行う)

1つの著作に対応する資料が複数ある場合は、その各々をレコード作成の単位とする。

〔例〕 古今和歌集
・天明3年写 1冊
・万治3年刊 6冊
(この場合、2件のレコード作成を行う)

なお、出版年、書肆等から同版と考えられるものが複数ある場合でも、その各々をレコード作成の単位とする。

〔例〕 徒然草

・寛文10年刊 2冊 2部

(この場合、2件のレコード作成を行う)

(2) 叢書の場合、叢書全体と、その細目の各々をレコード作成の単位とする。

〔例〕 三代集

古今和歌集・後撰和歌集・拾遺和歌集

・嘉永6年刊 6冊

(この場合、叢書全体に対する1件のレコード(「親」レコード)作成と、その細目の各々に対する3件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

なお、叢書の端本は叢書扱いとはせず、単独または合刻・合写の扱いとする。叢書についての情報は叢書注記に記録する。

(3) 合写・合刻の場合、そのひとまとまりの資料全体と、その中に含まれる複数の著作に対応する各々の書誌をレコード作成の単位とする。

〔例〕 消息往来と消息往来講釈の合刻

・刊 1冊

(この場合、資料全体に対する1件のレコード(「親」レコード)作成と、2件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

〔例〕 古今切紙、伊勢物語切紙、伊勢物語之髓腦の合写

・文久3年写 1冊

(この場合、資料全体に対する1件のレコード(「親」レコード)作成と、3件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

(4) もともと別のまとまりの資料が綴じ合わされて、ひとまとまりとなった合綴の場合にも、その資料全体と、その中に含まれる複数の著作に対応する各々の書誌をレコード作成の単位とする。

〔例〕 万葉見安と万葉集註釈の合綴

・写 1冊

(この場合、資料全体に対する1件のレコード(「親」レコード)作成と、2件のレコード(「子」レコード)作成を行う)

また、資料により、これらの組み合わせが生じることがある(叢書内合刻・合綴内合写)

等)。叢書・合綴等の場合の具体的なデータの採り方については、付表3「叢書・合綴等のデータ項目振り分け表」および付表4「叢書・合綴等の書誌振り分け表」および付表4「叢書・合綴等のデータ構造およびレコードの作成と表示」を参照すること。

1. 5 記録の方法

固有名詞（書名、人名、書肆名等）・原文から引用した文は、原則として記述対象に表示されているままに記録する。それ以外は、情報源の文字にかかわらず、常用漢字等政令漢字・算用数字に統一して記入する。

1. 5. 1 使用文字

原則として、資料に記載されているとおりに記入する。ただし、入力に際しては、システムで取り扱えない文字はできる限り近い文字に置き換える。変体仮名は平仮名に改める。万葉仮名はそのまま表記する。くり返しを表すおどり字（「ゝ」「ゞ」「ゝ」「ゞ」「ㇿ」「々」など）もそのまま記録するが、2文字分以上にわたる長さの記号など、転記することが不可能な場合は、該当する文字と同じ文字に置き換える。なお、数字に関しては、巻次の記入（3. 6. 1）を参照のこと。

1. 5. 2 よみの表記

よみの表記は、現代仮名遣い、平仮名表記とする。

1. 5. 3 判読不可能文字および推読文字

書名の記入および注記で原文から引用文を転記する場合において、破損その他の理由で判読できない文字は、四角（□）を該当文字数分記入する。原則として文字の推読は行わない。ただし、判読不能文字に対応するよみについては、推読して記入する（記載書名のよみ（3. 4. 1）、不明な部分のある書名（3. 4. 3）参照）。

1. 5. 4 補記

原則として補記はしない。ただし、著者役割の記入において、資料に記載されていない情報を補って記録する場合に限り、その事実を示すため、当該事項を角がっこ（[]）に入れる（著者役割（3. 5. 2）参照）。

2. データベースの特徴

2. 1 著作とのリンク

2. 1. 1 典拠コントロール

多様な記載書名を持つ和古書を識別し、同定を行い、また同名異書を判断するためには、著作典拠コントロールが有効である。和古書書誌レコードは、書誌に関する記述のほかに、対応する著作情報を付加することで著作ファイルとリンクし、典拠コントロールを行って

いる。ただし、本来別の著作として成立したものが後人によってひとまとまりとなった合刻・合写・合綴の資料については、資料全体に対する「親」レコードと著作のリンク付けを行わない。

典拠コントロールのため、統合古典籍データベースには、書誌ファイルの他に、著作ファイル、著者ファイルが用意されている。

著作および著者レコード作成の基準と作成方法および修正についての詳細は、「統合古典籍データベース著作データ作成マニュアル」および「同著者データ作成マニュアル」を参照すること。

なお、著者レコードは著作レコードとリンクして著作データの著者に関する情報となり、書誌レコードとは直接リンクしない。

2. 1. 2 著作とのリンク

日本古典籍総合目録データベースの著作ファイルに、当該書誌が対応する著作が存在する場合、書誌データに、その著作の情報を付加し、リンク付けを行う。対応する著作がない場合は、新たに著作レコードを作成したのち、その著作の情報を付加し、リンク付けをする。既存の著作レコードのデータを追加、訂正してリンク付けをする場合もある。

著作情報の付加は、著作の **WID** を記入することにより行う。

2. 1. 3 統一書名

著作データには、著作の代表的な名称である統一書名と別書名（統一書名とはしなかった別の書名）、著者およびその他の識別情報を収録する。

統一書名を決定することにより、ある著作が、さまざまな書名で刊行あるいは書写されている場合にも、統一された書名のもとにその各々の書誌データを集中させ、検索等の便宜をはかることができる。

既存のファイルに該当する著作がない場合は、著作データを新たに作成し、統一書名を決定する。

統一書名は、原則として原本にある形を資料本体から採用するが、箱・帙等にのみ書名がある場合はそこから採用してもよい。原本にその著作の書名が複数ある場合には、代表書名としてより適切な書名を選択する。

原本あるいは書誌データ中の書名が統一書名として適切でない場合は、適切な形に直して記入することができる。また、既に通用している書名が参考資料にあれば、それを優先して用いてもよい。可能な限り参考資料等を調査し、統一書名を決定する。また、ジャンルなどにより、書名の形の統一をはかる場合もある。

なお、記載されている書名から採用する場合の情報源の選択に当たっては、時代、ジャンルあるいは造本等の事情を考慮する。

資料中のどこにも書名の表示がないときは、簡潔で説明的な書名を決定する。

2. 1. 4 著作の著者

著作中の著者に関する情報は、著作著者関係として、著作に記入する。

著者は著作の知的もしくは芸術的内容の創造、ないしは資料への具現化に責任を有するか、寄与するところがある個人ないしは団体の名称等を著作データに記入する。著者の範囲は、直接的な著作者、すなわち本文の著者とか編さん者、画者などのほか、間接的な原作者、編者、訳者、脚色者なども含む。また、その著作の成立過程からみてそれらの間に一定の順序があれば、その順により記入する。原著者・校訂者、原著者・訳者、著者・編者の順等である。

なお、ここに記入するのは、著作レベルの著者であり、特定の本・版に関わった画者・校訂者等は、原則として含まない。それらを含む資料に記載されている著者名は書誌データに記入する。

2. 1. 4. 1 統一著者名

著者データには、著者の代表的な名称である統一著者名と別称（統一著者名とはしなかった別の著者名）、およびその他の識別情報を収録する。

統一著者名を決定することにより、ある著者が、さまざまな名称で著作を執筆等している場合にも、統一された著者名のもとにその各々の著作データを集中させ、検索等の便宜をはかることができる。

既存のファイルに該当する著者がいない場合は、著者データを新たに作成し、統一著者名を決定する。

原則として、著者の主たる活動領域・職業・身分等を考慮した上で、最も通用している名称を統一著者名として採用する。その選定にあたっては、とくに参考資料において多用されている形、あるいは資料上の表示に多用されている形（多くの著作で一致している形）について考慮する。

絵師・歌舞伎役者等のように数代にわたって同一名称を襲名する場合は、世系まで含めた名称を採用する。世系は「漢数字+世」とし、初世は一世に置き換える。

なお、統一著者名として採用しなかったその他の名称のうち、参照項目として必要なものについては別称として採用する。

2. 1. 4. 2 作品著者名

著作の著者を認定し、著作著者関係にその作品著者名を記入する。作品著者名は当該著作を執筆する等の際に用いられた名称である。作品著者名の決定は、原本にある形をできる限り尊重し、要素の逆転等もできる限り忠実に再現するが、字体は支障のない範囲で常用漢字等政令漢字に統一する。

作品著者名は、統一著者名・別称の中から一致するものを選ぶ。記入は、著者データのAIDおよび別称番号により記入する。その著者はあっても該当する別称がない場合は、新たに別称として登録し、その別称番号を用いる。

著者として認定したが、原本等にその記述がないなど作品著者名が明確でない場合は、統一著者名を記入する。そのジャンルや時代などにより推定して記入することはしない。

その著者の名称以外の下記のような要素が含まれている場合は、名前の一部として切り離せない場合を除いて、原則として著者名からははずす。

これらの要素は必要に応じて著者の識別事項として著者レコードに入力する。

国名・王朝名（外国人の場合）

関連地名（出身地・居住地等）

関連人物（家族・家系関係、師弟関係等）

所属（勤務先・寺社名・藩・役所名等）

学問・諸道・諸芸の流派

宗派

官職名（別称や活動領域・職業・身分としなかったもの）

2. 2 書誌構造

資料の書誌構造（書誌レコード間の関係）を以下から選択し記入する。

単独 … ひとまとまりの資料が1つの著作に対応するレコード、または、ひとまとまりの資料の中に複数の著作が含まれる場合の各々の著作に対応するレコード（「子」レコード）であることを表す。

叢書 … 叢書の場合の叢書全体に対応するレコード（「親」レコード）であることを表す。

合綴（および合綴扱い*） … 合綴および合綴扱いの場合の資料全体に対応するレコード（「親」レコード）であることを表す。

合刻・合写 … 合刻、合写の場合の資料全体に対応する書誌レコード（「親」レコード）であることを表す。また、刊写の別との組み合わせで資料が合刻か合写かを表す。

叢書または合綴・合写・合刻の場合は、叢書とその細目、またはその資料全体と合綴等されているものを、上記の書誌構造と個々の書誌レコード番号で相互に関連付けて、資料のまとまりを表す。書誌構造が叢書、合綴、および合刻・合写の場合は、「親」レコードにその「子」の書誌レコード番号を、「子」レコードには「親」の書誌レコード番号を記入し、リンク付けする。叢書・合綴等の中にさらに下位レベルの叢書・合綴等がある場合は、それらを組み合わせる。

* 複数の著作に対応する資料が、形態上は綴じ合わされていなくても、同じ箱や帙に入る、同じに改装されている、後人により合題が付けられているなど、ひとまとまりの資料として伝来したものについては、そのまとまりを表すため、便宜上の合綴とみなし、合綴と同様に扱う。また、記述対象の紙背に著作に対応するものがある場合も、紙表と紙背をひとまとまりとして合綴と同様に扱う。

和古書書誌データ使用コード

単	:	単独
双	:	叢書
綴	:	合綴・合綴扱い
合	:	合刻・合写

3. データ記入要領

3. 1 キーワード

冊子目録作成等、あるテーマ（分類・主題・時代など）に沿って、統合古典籍データベース中の和古書書誌レコードを抽出する際などに、任意のキーワード表によってキーワード等を記入することができる。なお、著作にも識別情報のひとつとしてキーワード（分類）がある。

3. 2 刊・写の別

資料が印刷によるか書写によるかを以下から選択し記入する。

刊 印刷による
写 書写による
混 刊写入り混じり

和古書書誌データ使用コード

刊 : 印刷による
写 : 書写による
混 : 刊写入り混じり

なお、刊本が部分的に補写されている場合、また、一組の刊本のうち部分的に写本で補っている場合には、「混」ではなく「刊」とする。ただし、詳細は書写に関する注記（3. 1 3. 4）に記入する。一方、写本に刊本による補いがある場合にも同様に扱い、その詳細を出版に関する注記（3. 1 3. 3）に記入する。

3. 3 標目書名

標目書名は本としての資料の代表書名である。原則として、対応する著作の統一書名を資料の代表書名とみなすこととし、標目書名は記入しない。

3. 4 記載書名

原則として資料に記載されている書名をその種別（記載箇所）とともに、すべて記入する。表記・字体ともそのまま記入する。ここに記入する書名は、レコード作成の単位に対応するものとする。すなわち、叢書、合綴等の場合は、「親」レコードには叢書名や合題等を記入し、「子」レコードには各々の細目の書名を記入する（具体的なデータの採り方については付表3「叢書・合綴等のデータ項目振り分け表」を参照すること）。

なお、書名とともに記載されている巻次については、原則として記入しない。

3. 4. 1 記載書名のよみ

よみは既存の書誌データ、著作ファイル、その他の参考資料等を典拠として決定する。ただし、資料（主として刊本・写本）の記載書名に振り仮名があり、通行のよみと異なる場合は、そのよみを採用してもよい。このとき、一般注記（2. 2 1）に「書名よみは振

り仮名による」等記入する。典拠等がない場合は推定して記入する。推定による記入の場合も、よみに角括弧〔 〕を付けて補記する等はしない。

書名中の年月日等に使用されている漢数字は、算用数字ではなくそのよみを記入する。

3. 4. 2 書名中の区切り記号

情報源で書名の本体と角書・冠称・副書名・部編名等の部分が区別して記載されている場合は、スラッシュ（／）で区切記入する。

〔例〕歌合／寛政三年九月十三夜

うたあわせ／かんせいさんねんくがつじゅうさんや

3. 4. 3 不明な部分のある書名

書名に、破損、摩滅等で判読できない文字がある場合、その箇所は四角（□）を当該文字数記入する。よみは推定し記入する。

〔例〕唐人言□

とうじんことば

ただし、記載されていても一字も判読できない場合や、大部分が判読不能でよみが推定できない場合は記入せず、一般注記（3. 1 3. 1 1）に「表紙に書名あり（判読不能）」等と記入する。

3. 4. 4 誤記、誤植、誤刻のある書名

原則として、誤記、誤植、誤刻がある場合も、そのまま記入する。対応するよみは正しいものを記入する。ただし、著作の判断を誤る等の著しい誤りの場合はここには記入せず、一般注記（3. 1 3. 1 1）に記入する。

3. 4. 5 記載箇所

資料中の記載書名は、下記の箇所から採録する。採録は可能な限りこの順に従う。

なお、書名の記された箇所は原則として現状による。改装されて資料中の記載箇所が移ったような場合は、必要に応じてその旨を形態注記（3. 1 3. 6）に記入する。

和 古 書 目 録 書 誌 デ ー タ 使 用 コ ー ド	内	卷首（内題）
	目	目録冒頭（目録題）
	目中	目録中に記された細目
	扉	扉（扉題）
	扉裏	扉裏（扉裏題）
	尾	本文末尾（尾題）
	見	表紙見返し（見返し題）
	裏見	裏表紙の見返し
	外	表紙および題簽（外題）
	序首	序文冒頭（序首題）
	跋首	跋文冒頭
	凡	凡例冒頭
	刊	刊記中
	奥中	奥書中
	序中	序文中
	跋中	跋文中
	裏表	裏表紙
	袋	近世版本等の書袋
	柱	版心（柱題・柱刻題）
	帙	帙ならびに箱等の容器
	X	その他（耳題、欄外題、喉に記された書名、 書根字、極札・極書に記された書名 等）

〔 注意事項 〕

- ・外 刊本の場合の外題が、後補の書き題簽、書き外題の場合は、その旨を形態注記（2. 2 1）に記入する。
- ・柱 版心の書名については、簡略化され、他の記載書名の一部であるような表記の場合は、省略することができる。
- ・帙・袋 帙・箱・袋等については、最近作成されたもので、書名が他の記載書名とほぼ同様の表記である場合は、省略することができる。また、当館で作成したものの場合にはそこに記された書名については採録しない。
- ・X 「その他」の書名については、他に記載書名がない場合などに必要に応じて記入し、一般注記（3. 1 3. 1 1）にその記載箇所を「記載書名は耳題」等と記入する。

3. 4. 6 複数の書名

複数の記載書名がある場合、原則としてすべて記入する。

複数の異なる書名が記されている場合は、記載箇所の異同に関わらず各々記入する。

- 〔例〕 1 熊野紀行
くまのきこう
内
- 2 遠江の道の記
とおとうみのみちのき
内
- 3 熊野の記
くまののき
尾

同一書名が異なる箇所記されている場合は、中黒（・）で区切って記載箇所を列記する。

- 〔例〕 後撰和歌集標注
ごせんわかしゅうひょうちゅう
外・序首

3. 4. 7 叢書・合綴等の資料全体の書名

叢書・合綴等の資料全体に関わる書名（合題）は「親」レコードに、記載箇所とともに記入する。

- 〔例〕 三女譚 （おあん物語・おきく物語・妙海語の合写本の合題の例）
さんじょだん
外

合題がない場合、表紙・扉等に細目の書名が列記されていれば、スラッシュ（／）で区切って記載箇所とともに記入する。書名が3つまでの場合はそのまま記入する。4つ以上の場合は、ここには記入せず、一般注記（3. 1 3. 1 1）に記載箇所とともに細目書名がある旨記入することができる。

- 〔例〕 古今集作者／後撰集作者／拾遺集作者
こきんしゅうさくしゃ／ごせんしゅうさくしゃ／しゅういしゅうさくしゃ
扉

3. 5 記載著者名

資料に記載されている著者名を、表記・字体ともそのまま記入する。また、その著者の役割（著作への関与のあり方）や、関与した部編についてもそのままの表記（ただし字体は新字体とする）で記入する。広く画者あるいは校注・校訂者のように著作の成立やその

資料の製作に副次的に関わった人物も含める。

異なる箇所それぞれ複数の著者名が記載されている場合、原則として巻頭から著者名の一揃いを採録する。ただし、時代・分野等を考慮して、最も通用している著者名が巻頭以外に記載されているような場合（合巻の表紙の画者名など）はそれを採録することができる。また、必要に応じて他の記載箇所から未採録の著者名を採録することができる。その場合、記載箇所を著者に関する注記に記入してもよい。（著者に関する注記（3. 1 3. 2）参照）。

1人の著者が複数の役割をもち、役割により異なった著者名が記載されている場合は、役割ごとに著者名を記入する（複数の役割表示（3. 5. 2. 1）参照）。

また、同じ役割の著者が複数ある場合は、必要に応じて幾人かを挙げて他を省略することができる（複数の著者の省略（3. 5. 3. 1）参照）。

3. 5. 1 著者名の記入

著者名の表記は、姓・名・号・世系等の要素ごとにスラッシュ（／）で区切って記入する。ただし、「曉鐘成」「元木綱」のように、姓・名のような形に似せて作られた戯名・号などは、区切らず続けて記入する。尊称等は「醍醐／天皇」「円光／大師」「菊亭／主人」「東光堂／先生」のように区切って記入する。要素の区切り等についての詳細は、「統合古典籍データベース著者データ作成マニュアル」の付則2「著者名要素区切りマニュアル」を参照すること。居住地・藩名や役職名等の肩書、所属団体名などは原則として著者名要素としない。ただし、前出の著者との続柄等が識別のために必要となる場合は著者名要素として記入する。

よみは記入しない。

〔例〕 紀／貫之

〔例〕 菅原／孝標／女

〔例〕 源／之熙／君績
男／修／士業

3. 5. 2 著者役割

著者の役割は、原則として、資料に記載されているものを著者名のあとにそのまま記入する。ただし、旧字体で記載されている場合は新字体に置き換える。

〔例〕 平／春海 評

なお、同じ内容の役割が部所により異なった表記で記載されている場合（例えば、見返しに「編」巻頭に「編輯」刊記に「編纂」など）は、採録した著者名とともに記載されている表記を選択し記入する。

役割が記載されていない場合は記入しない。ただし、他の著者の役割と異なる場合など、役割を明記する必要がある場合は、適切な役割を角がっこ（〔 〕）に入れて補記する。

〔例〕 兼載

〔例〕 宗長 〔判〕

3. 5. 2. 1 複数の役割表示

1つの著者名に対して複数の役割の記載がある場合は中黒（・）で区切り、役割表示を繰り返す。

〔例〕 十返舎／一九 著・画

ただし、1人の著者が複数の役割をもち、役割により異なった著者名が記載されている場合は、複数の著者（3. 5. 3）と同様に各々別に記入する。

〔例〕 山東／京傳 作
北尾／政演 画

3. 5. 3 複数の著者

著者を2人以上記入する場合は、同じ役割表記であっても各々の著者に役割を記入する。

〔例〕 式亭／三馬 編
歌川／豊國 画
歌川／豊廣 画

3. 5. 3. 1 複数の著者の省略

同じ役割の著者が複数記載されている場合は、記載順もしくは主要な3人を採録して他を省略することができる。その場合、役割表示の前に「等」を記入する。ただし、場合により省略しない（4人の句集等）。

〔例〕 六樹園大人
浅草庵大人
鈍々亭大人 等 撰

3. 5. 4 著者の推定

著者名とともに著者が言い伝えによることを示す「伝」等の記載がある場合は、役割と共に「伝」と記入する。

〔例〕 藤原／定家 編 伝

3. 5. 5 部編等の注記

資料が複数の部編等に分れていて、各々に異なる著者名が記載されている場合は、著者名のあとに該当する部編名等を記入する。1つの著者名ごとに記入することとし、同一部編内に複数の著者がある場合は、各々の著者名に記入する。

部編の数字、区切り記号は、巻次の記入（3. 6. 1）で示す方法で記入する。

〔例〕	柳川／重信	画	初～六編
	溪斎／英泉	画	初～六編
	歌川／國直	画	七～九編

また、1人の著者が部編により異なった著者名で記載されている場合は、部編ごとに著者名、役割等を記入する。

〔例〕	一陽斎／豊國	画	初編
	香蝶樓／國貞	画	二編

なお、合巻等で多数の部編があり、それぞれに複数の組み合わせの著者名が記載される等、記入が繁雑になる場合には、より多くの部編に共通する著者名、役割等の一揃い、もしくは、最初の部編に記載されている著者名、役割等の一揃いを部編名等とともに採録し、他の部編については、必要に応じて著者に関する注記（3. 1 3. 2）に記入してもよい。

3. 5. 6 国名・王朝名

著者名（外国人）に国名（蘭・英等）、中国・朝鮮の王朝名（唐・清等）が付されている場合は国名、王朝名を丸がっこ（（ ））に入れ、著者名の前に記入する。表記は記載されているまま、字体は新字体とする。

〔例〕 （清）／吳／清鎮 撰

3. 6 巻次

資料から巻次を記入する。判断のつく限り、冊数とは区別し、内容としての巻数を巻次で記入する。原則として完本の場合に記入し、残欠がある場合はここには記入しない。残欠がある場合は、残欠本の巻数表示の規定（3. 1 1）により記入する。

3. 6. 1 巻次の記入

数字については、巻次を示す場合は、漢数字とする。また、「10」は「一〇」、「250」は「二五〇」とし、十、百、千の字は使用しない。

このとき、区切り記号は、次のように統一する。

- ①続く場合は波ダッシュ（～）、途切れる場合は中黒（・）を用いる。ただし、二つの数字が続く場合は「一・二」とし、「一～二」としない。
- ②「上中下」、「乾坤」などは間に区切り記号を入れない。
- ③「前編一～三」「後編一～三」などの間は、カンマ（，）で区切る。

〔例〕 卷之一・二

第一～七輯

初編卷一～三，二編卷一～三，三編卷一～四

卷一～一〇，附録

上中下

仁義礼智信

また、注記等で、全体でいくつあるかを示すときは算用数字を使用する。

〔例〕 全八卷 → 8 卷

この記入方法については、和古書の書誌レコード中に記入する他の巻数および部編等の記入についても適用する。

3. 6. 2 原欠本の記入

原欠（現存の伝本がない部分）の場合には、完本と判断し、残欠表示ではなく、巻次を含めて記入する。残欠の状態を丸がっこ（（ ））に入れ、完本の巻次に続けて記入する。

〔例〕 卷一～三一（卷八・一八・二一原欠）

（注）3 1 卷中、3 卷（卷八・一八・二一）原欠の場合

3. 7 書写事項

書写に関する下記の事項を記入する。最終書写記であると判断できる場合にのみ記入する。奥書等に記載があっても、その資料の実際の書写に関するものか判断がつかない場合、また転写本の場合の以前の書写に関する事項等はここには記入せず、書写に関する注記（3. 1 3. 4）に記入する。記入に際しては、判断が必要になるので十分な注意を要する。

3. 7. 1 書写者

書写者の記載があれば、表記・字体ともそのまま記入する。記載著者名（3. 5）と同様に要素に分け、スラッシュ（／）で区切り記入する。ただし、よみおよび役割表示は記入しない。

〔例〕 西下／經一

書写者は資料の記載をそのまま記入する。参考資料等によって、書写者についてより明らかな情報がわかれば、書写に関する注記（3. 1 3. 4）に記入する。

〔例〕 通邦

(書写に関する注記に「稲葉通邦写」と記入)

3. 7. 2 書写地

記載された地名が書写地(製作地)であることが明らかな場合は、書写者名のあとに山がっこ(〈〉)に入れて表記・字体ともそのまま記入する。

原則として都市名を転記する。都市名がなく町村名等で記載されている場合は、当時の都市名に置き換えて記入する(三都に置き換える場合は、「京」「大坂」「江戸」の表記に統一する)。都市名で記入できない場合は、国名、郡名、村名等をそのまま記入してもよい。

〔例〕 本居／宣長〈松阪〉

3. 7. 3 書写年

書写年の記載があれば記入する。書写年が元号と年数の形で記されている場合は、元号と算用数字の形に統一する。その場合、元号の字体は新字体に統一し、「年」は省略し、「元年」は「1」とする。

〔例〕 寛政1

〔例〕 正徳3

年次が元号と十干十二支だけで記されている場合は、相当する年数に置き換えて記入する。

〔例〕 「寛永癸酉年」→ 寛永10

元号がなく年次(年数または十干十二支)だけで記されている場合は書写に関する注記(3. 1 3. 4)に記入する。その際、参考資料等から元号や年数が推定できればそれを付記し記入する。

2年以上にわたって書写された場合は、最初の年と最後の年を「～」でつないで記入する。

〔例〕 文政5～文政6

書写記等の記載はなくても、書写年やおおよその書写年代が資料、その他参考資料等から推定できる場合は、ここには記入せず書写に関する注記(3. 1 3. 4)に記入する。

3. 7. 4 複数の書写事項

補写などにより、複数の書写事項がある場合は、これをすべて記入することができる。その際、各々の部編名等を記入する。部編名中の数字、区切り記号は巻次の記入(3. 6. 1)で示した方法で統一する。

〔例〕 文化 7 巻一～巻四

黒川／春村 文化 10 巻五

(巻一～巻四は文化 7 年写(書写者不明)、巻五は文化 10 年黒川春村写)

3. 8 出版事項

出版に関する下記の事項を記入する。その本が出版された年、関係した書肆等の名前、地名を記入する。従って再刻、後修や後刷の場合の以前の出版に関する事項や蔵版についてはここには記入せず、出版に関する注記(3. 1 3. 3)に記入する。

情報は原則として刊記から採録する。ただし、刊記がない場合、またはあっても不十分・不適切な場合等で、それ以外の箇所(見返し・蔵版目録等)に有効な情報がある場合には、その箇所から採録し、その旨を出版に関する注記(3. 1 3. 3)に記入する。

3. 8. 1 出版者

書肆等の出版者の記載があれば、その姓名、屋号等の表示をすべて記入する。表記・字体ともそのまま記入する。ただし、書肆名とともに「売捌」「売弘」等の記載があり、それが売捌人であることがわかる場合は採録しない。記載著者名(3. 5)と同様に要素に分け、スラッシュ(/)で区切って記入する。よみは記入しない。

〔例〕 井筒屋／庄兵衛

勝村／治右衛門

千鐘房／須原屋／茂兵衛

文永堂／武田／傳右衛門

なお、書肆名とともに「板」「版」「梓」「梓行」「蔵板」「蔵版」等の記載や朱印等がある場合、ここには書肆名だけを記し、「板」等については出版に関する注記(3. 1 3. 3)に記入する。

〔例〕 須原屋／茂兵衛

(出版に関する注記に「刊記に須原屋茂兵衛板とあり」と記入)

なお、書肆ではない蔵版者については、出版に関する注記(3. 1 3. 3)に記入する。

3. 8. 1. 1 複数の書肆名

複数の書肆名を列記する場合は、カンマ(,)で区切って記入する。

〔例〕 出雲寺／和泉掾, 吉田／四良右衛門, 野田／彌兵衛

3. 8. 2 出版地

地名(書肆所在地名)の記載があれば、書肆名のあとに山がっこ(〈〉)に入れて表記・字体ともそのまま記入する。

〔例〕 須原屋／茂兵衛〈江戸〉， 柏原屋／清右衛門〈大坂〉

原則として都市名を転記する。都市名がなく、町村名等で記載されている場合は、当時の都市名に置き換えて記入する（三都に置き換える場合は、「京」「大坂」「江戸」の表記に統一する）。都市名で記入できない場合は、国名、郡名、村名等をそのまま記入してもよい。

〔例〕 大阪 → 〈大坂〉
御堂筋 → 〈大坂〉
寺町通 → 〈京〉

3. 8. 3 出版年

出版年の記載があれば記入する。記入の方法は書写年（3. 7. 3）に準ずる。

出版年はその本が出版された年とする。従って、再刻、後修や後刷等の場合に、複数の情報があるときは、最新の刊年を出版年とする。その際、以前の出版に関わる年は出版に関する注記（2. 2 1）に記入する。

2年以上にわたって出版された場合は、最初の年と最後の年を「～」でつないで記入する。

3. 8. 3. 1 出版年としての序跋年

出版年の記載はないが序跋年が出版年に等しいと推定できる場合でも、序跋年を出版年としては記入しない。序跋に関わる事項として必要に応じて序跋注記（3. 1 3. 5）に記入する。その場合も、年を表す数字は算用数字に統一する。

3. 8. 4 複数の出版事項

資料が複数の部編等に分かれていて、各々出版事項が異なる場合は、これをすべて記入することができる。その際、出版者、出版地、出版年のあとに各々の部編名等を記入する。ただし、多数の部編がある場合は、最新の部編の出版事項を記入し、他の部編については、必要に応じて出版に関する注記（2. 2 1）に記入する。また、書肆に異同がない場合は、まとめて記入することができる。その場合、2年以上にわたって出版された場合は、最初の年と最後の年を「～」でつないで記入する。

なお、刊行開始の年部編名中の数字、区切り記号は、巻次の記入（3. 6. 1）で示した方法で統一する。

〔例〕 和泉屋／金右衛門〈江戸〉， 英／文藏〈江戸〉 天保14 初編
須原屋／茂兵衛〈江戸〉， 英／文藏〈江戸〉 文久3 二・三編

3. 9 数量

資料の数量を記入する。「冊」等の単位を用いて数字＋単位で記入する。数字はすべて算用数字とする。単位は装訂や形態を考慮して下記のものを用いる。さらに詳細な情報（折・面・曲・綴・帙等）については必要に応じて形態注記（3. 1 3. 6）に記入する。

また、改装されたものの場合は、現在の状態について記入し、以前の装訂に関することは必要に応じて形態注記（3. 1 3. 6）に記入する。

冊	:	袋綴、粘葉装（胡蝶装）、列帖装（綴葉装）、包背装、 結び綴（大和綴）、仮綴、紙釘装
帖	:	折本・折帖・画帖装
軸（巻）	:	卷子本（巻は軸のない場合）
幅	:	掛物（幅物・掛軸）
枚	:	一枚物、短冊
丁	:	もとは綴じられた冊子の部分
通	:	書簡
舗	:	疊物
双	:	屏風（一對揃っている場合）
隻	:	屏風（一對の片方のみの場合）
点、束、包、箱	:	その他

ひとまとまりの資料が異なる装訂の資料を含んでいる場合、原則として主たる部分の装訂の数量を記入し、付属する部分の数量については一般注記（2. 2 1）に記入する。ただし、主たる部分か判断できない場合等は、それぞれの装訂の数量を中黒（・）で区切り列記する。

叢書・合綴等において、ひとまとまりの資料が異なる装訂の「子」レコードを含んでいる場合、「親」レコードには、全「子」レコードのそれぞれの装訂の数量を中黒（・）で区切り列記する。また、各々の「子」レコードには、その部分の数量を記録する。その場合も、原則として主たる部分の装訂の数量を記入し、付属する部分の数量については一般注記（2. 2 1）に記入する。ただし、主たる部分か判断できない場合等は、それぞれの装訂の数量を中黒（・）で区切り列記する。

〔例〕 古今和歌集 2冊
（〈一般注記〉に「〈般〉二世畠山牛庵添状1通を付す」と記入）

〔例〕 寛永行幸記 2軸・1帖
（もとは3巻3軸のものが、巻3のみ折本に改装）

3. 10 形態的事項

資料から丁数（葉数）および大きさを記入する。数字はすべて算用数字とする。

資料が1冊の場合、丁数を記入する。複数冊の場合は、丁数を省略することができる。
合刻・合写・合綴の場合の「子」レコードが、それぞれ1冊に満たない場合は、数量（3．9）は記入せず、ここに丁数を記入する。ただし、その「子」レコードが単独で複数冊にまたがっているような場合は、数量（3．9）を記入し、丁数は省略することができる。

丁数は、綴じられた冊子の紙数を数え、数字＋「丁」で記入する。丁付けについては、必要に応じて形態注記（3．1 3．6）に記入することができる。

資料の大きさは、下記の（1）～（6）に従って記入する。大きさの記入については、センチメートル単位とし、小数点第1位までとする。前表紙（資料が複数冊の場合は第1冊）の綴じ側の天地と上辺を測る。複数冊で冊により大きさが数ミリメートルを越えて異なる場合は、主な大きさをここに記入し、残りは形態注記（3．1 3．6）に記入する。

- （1）版本（冊子）の場合は 縦×横を記入し、さらに書型（**）を記入することができる。
特大・特小・柘・縦・横に該当するものについては、縦×横、書型の両方を記入する。
- （2）卷子本、掛物、書簡は、料紙の幅（高さ）を記入する。
- （3）畳物については広げた大きさの縦×横を記入し、畳んだ大きさを丸がっこ（（ ））に入れて付記する。
- （4）屏風はその外寸の 縦×横 を記入する。
- （5）その他、一枚物等は 縦×横 を記入する。
- （6）卷子本の料紙の全長・続紙の紙数・表紙（見返し）の縦と横の大きさ、掛物の本紙の大きさ・紙数、屏風の貼り紙の大きさ等は、必要に応じて形態注記（3．1 3．6）に記入する。

** 書型 以下の中から略号を選んで記入する。（ ）内は大よその目安。

大	：	大本・美濃本、美濃紙二つ折（たて2 6～2 8 cm）
半	：	半紙本、半紙二つ折（たて2 2～2 5 cm）
中	：	中本、美濃紙二つ折の二つ折（たて1 8～2 0 cm）
小	：	小本、半紙二つ折の二つ折（たて1 5～1 7 cm）
特大	：	特大本・大美濃本、「大」より大きいもの
特小	：	特小本、「小」より小さいもの
柘	：	柘形本、ほぼ正方形
縦	：	縦長本、横に比して縦の長さが特に長いもの
横	：	横本、縦に比して横の長いもの

3．1 0．1 形態的事項の記入

複数の項目がある場合は、丁数、大きさ、書型の順に列記する。

〔例〕 85. 0 × 44. 5 c m
12. 1 × 18. 3 c m, 横
7丁, 26. 2 × 18. 5 c m, 大

3. 1 1 残欠表示

資料が完本でない場合、残欠に関する事項を記入する。

具体的な冊次・巻次で記入できる場合は、「〇〇存」、「〇〇欠」と記入する。

丁単位等の欠落についても、ここに記入する。

数字・区切り記号は、巻次の記入（3. 6. 1）に従う。

なお、原欠が判ったものについては、残欠表示ではなく巻次を含めて記入し、残欠状態の記入については、この記入方法に従う。

〔例〕 第二冊（巻三～五）欠
上欠
坤存
巻五・七存
零本
残欠あり
前半欠
巻之二第三丁欠
第一冊末欠
初編，二編巻之三下・四上，三編巻之一存
冒頭約40～50字，中間約1200字欠

3. 1 2 叢書巻号表示

書誌構造を作成した叢書で、その巻次、部編名などが記載されている場合、細目に当る「子」レコードに、該当する巻次、部編名等を記入する。表示は、そのまま転記する。叢書名は、ここには記入しない。

〔例〕 「親」レコード：丹鶴叢書
「子」レコード：和泉式部集（丹鶴叢書 第三冊）の場合
叢書巻号表示 → 第三冊 と記入

3. 1 3 注記

前項までの各書誌的事項に関する説明や、それらの項目に記述できなかった事柄等を、資料およびその他参考資料等から必要に応じて記入する。字体は原則として新字体に統一するが、資料記載事項の引用（本文、奥書等）や著者に関する注記の著者名についてはそ

のまま記入する。記入に際しては簡潔な表現を心がける。

貴重書およびそれに準ずるものについては、できる限り詳しく記入する。

資料、参考資料等から原文を転記する場合は、すべてかぎっこ（「」）で囲む。原文の種類と記載場所等を示す事柄を丸がっこ（（ ））に入れて先頭に付けることができる。

〔例〕 （奥書）（巻五末）「〇〇〇」

注記の種類および記入順序は以下のとおりとする。

和古書書誌データ使用コード

〈系〉： 系統注記
〈著〉： 著者に関する注記
〈版〉： 出版に関する注記
〈写〉： 書写に関する注記
〈序〉： 序跋注記
〈形〉： 形態注記
〈奥〉： 奥書・識語注記
〈書〉： 書入れ・校合注記
〈伝〉： 伝来注記
〈叢〉： 叢書注記
〈般〉： 一般注記
〈備〉： 備考

3. 1 3. 1 系統注記

本の系統に関する事柄を記入する。

〔例〕 中村本
三撰本
古浄瑠璃五段本
土佐少掾橘正勝正本
観世左近太夫入道章句本

3. 1 3. 2 著者に関する注記

その資料に関わる著者についての事柄を記入する。

ただし、著作レベルの著者の別名、身分・職業・活動分野等、著者関連情報については、必要に応じて統合古典籍データベース著者ファイルの著者レコードの該当するフィールドに記入する。

〔例〕 奥書に兼載作とあり
書袋には八文字屋自笑作とあり
飛鳥井雅綱についての書付あり

3. 1 3. 3 出版に関する注記

当該資料の出版に関する事柄のうち、出版事項に入るべきもの以外をここに記入する。
写本の刊本による補い等についてもここに記入する。

蔵版者に関する事柄についてはここに記入する。

また、版の種類を示す事柄について記入する。版（刊・刻）・刷（印）・修の関係、丹緑本、古活字版（古活字本）、木活字版（木活字本・近世活字版（本））等についても記入する。

〔例〕 慶応3年卯年改
巻五に寛文十二表紙屋庄兵衛板とあり
後見返しの蔵開版目録に享和2年とあり
見返しに嘉永新刻とあり
出版年は見返しによる
鈴乃屋蔵版とあり
橘枝堂蔵版目録を付す
別本刊記（延宝8年大坂深江屋太郎兵衛刊）を後に貼付したもの
須原屋茂兵衛に版元印あり
寛永中刊古活字版
古活字覆刻整版本
天保3年版の再刻
寛文12年版の後刷
元文5年版新版絵入つれつれ草の補刻
丹緑本
明治版
高野版
拓本

また、必要に応じて刊記を転記することができる。

〔例〕 （刊記）「寛文二年壬寅仲春下旬開板」

3. 1 3. 4 書写に関する注記

書写に関する事柄を記入する。奥書、書入れに関する注記は、原則として各々の種別に振り分けて記入するが、「○年奥書本の写」「○○書入本の写」「○○文庫本の写」など

のように、資料を特定する場合はここに記入する。手稿本、ペン写、補写などについても記入する。刊本の補写の場合もここに記入する。

資料に記載がないが極札、考証等から「著者自筆」と推定できるような場合は、ここに記入する。

〔例〕 江戸初期写
新写本
巻二は別筆
図書寮蔵本の写
真淵書入本の写
慶安5年刊上村次郎右衛門版の写
欠丁の部分を補写
著者自筆
著者自筆稿本
極札に冷泉為広筆とあり
奈良絵本
奥書に辛卯とあり

3. 13. 5 序跋注記

序、跋に関する事柄を記入する。原則として、著作の認定に関わるものや、成立を示す場合、もしくは出版年と等しいと推定できる場合に記入する。

複数の序跋がある場合は、中黒（・）で区切り列記する。

〔例〕 文化14年岸本由豆流序
蚊田蒼生の跋あり
寛文2年陳元賛序・同年元政序
天明7年自序・寛政9年林述斎跋
万延元年杞憂道人序・同文久元年跋

3. 13. 6 形態注記

資料の物理的、形態的な事柄で、形態的事項に入らないものを記入する。装訂・形態・匡郭・行数・字数・題簽・表紙・料紙その他について、必要に応じて記入する。虫損・水濡れなどの資料の保存状態もここに記入することができる。

補修・改装については、重要なものについて記録する。記入するときには、受入時点で既に行われていたものと当館で行ったものを識別できるようにする。なお、当館での補修については、別途補修記録も作成する。

袋綴じ（線装）以外の装訂・形態について必ず記入する（装訂の名称は、数量（2. 17）を参照）。なお、線装の様式についても必要に応じてここに記入することができる。

書簡等で、書名中にその用語が含まれているため、その装訂が判断できるものは省略しても良い。

〔例〕 第四冊 24.5 × 32.1 cm
書袋あり
3冊本の合綴
屏風貼込み（原型は横本約 17 × 27 cm）
表紙・巻頭 1 丁後補
外題は後補，書き題簽
懷紙改装
原装は列帖装
絵入料紙使用原懷紙 1 卷
虫損あり
水損甚し
卷子本
結び綴
康熙綴

3. 13. 7 奥書・識語注記

その本に関して後に書き記された文章・文字に関する事柄を記入する。
複数の奥書、識語がある場合には、中黒（・）で区切り列記する。

〔例〕 文亀 2 年宗祇の奥書あり
賀茂季鷹・百合園蓮阿の識語あり

資料の文をそのまま転記することができるが、長すぎる場合は重要な部分を抜き出し、それ以外の部分は、丸がっこに入れた三点リーダー「（…）」に置き換えて省略することができる。

〔例〕 （識語）「此一冊小笠原佐渡守様奥様御幼年常姫様之御筆也／故有被
下老女／藤枝／宮内明哲三橋」
（奥書）「寶永二のとし五月下浣中岳依田氏亮村稿」「寶永三丙
戌四月下旬以自息軒主舟橋式部少輔所藏本校正畢」
（奥書）「本云／右此本者二條家為定卿以自筆写之（…）藤原雅教」

3. 13. 8 書入れ・校合注記

本文に対する注・評・点等の書入れ、あるいは他のテキストとの本文の比較に関する事柄を記入する。

〔例〕 朱書あり
墨細字の頭注・割注あり
清水浜臣の書入れあり
書入れについて極札に「紹巴は墨・三條は朱・正澄は朱」とあり
点印あり
天保13年長澤伴雄朱校あり
図書寮本による校合あり
平縁信校合本

3. 13. 9 伝来注記

資料の旧蔵者に関する事柄を記入する。資料中の記載事項、その他により採録する。

〔例〕 式亭三馬旧蔵
九条家旧蔵本
飛鳥井雅豊手沢本

また、資料中の蔵書印について記入する。蔵書印記を資料から転記する。ただし、字体は原則として新字体に統一する。なお、寄託資料の所蔵者等の蔵書印については採録しない。

〔例〕 (印記) 「真木園図書記」
(印記) 「吉田蔵書」「陽春廬記」
(印記) 「□川蔵書」
(印記) 「青洲文庫」「南葵文庫」他

3. 13. 10 叢書注記

原則として、資料が叢書中の端本の場合にのみ記入する。叢書名、部篇名、巻次（叢書番号）等をブランクで区切って記入する。

なお、書誌構造を作成した叢書の細目に当るレコードの場合は、部編名、巻次等を叢書巻号表示（3. 12）に記入し、叢書注記は記入しない。

〔例〕 続群書類従 和歌部 四二二
甘雨亭叢書 第五集
拙修斎叢書

3. 13. 11 一般注記

各データ項目の補足説明、その資料の特徴、性質等を示す事項、その他上記の注記の種

別に入らない事柄を記入する。

〔例〕 絵入本

上段にうすゆき物語・下段に伊勢物語

前題百詠・後題百詠を収む

尾藤二洲・中井董堂・頼春水等近世儒者の書簡 5 2 通の貼込み

主として天保・嘉永・安政期における中の芝居・角の芝居の役割番附

2 種取り合せ本

漢詩 8 編を付す

歌題「寄野菜恋」

子息市左衛門宛

外題よみは振り仮名による

記載書名は耳題

表紙に細目書名を列記

天保 4 年成立

旅眼石の改題本

3. 1 3. 1 2 備考

書誌データ作成の典拠となった、参考資料等について記入することができる。記述したデータ内容には直接関わらないが、情報として公開したい事項をここに記入する。なお、この記入は慎重におこなう。

〔例〕 「増補古活字版之研究」上巻 p 5 2 4 参照

〔例〕 「高野板之研究」高野板上木年表参照

3. 1 4 業務メモ

データ作成の際の覚書等を、業務メモとして必要に応じて記入する。

〔例〕 書名のよみは「仏教大辞典」による

付表1 和古書目録書誌レコードデータ項目

マニュアル 項番	デ ー タ 項 目	作成
2.2	書誌構造	◎
2.1	著作とのリンク（WID）	◎
3.1	キーワード	△
3.2	刊・写の別	◎
3.3	標目書名	×
3.4	記載書名	○
3.5	記載著者名	○
3.6	巻次	○
3.7	書写事項	○
3.8	出版事項	○
3.9	数量	◎
3.10	形態的事項	○
3.11	残欠表示	○
3.12	叢書巻号表示	○
3.13	注記	○
3.14	業務メモ	○

◎ 必須 ○ 該当すれば、または必要に応じて記入 × 記入しない

付表2 和古書目録書誌レコードデータ採録情報源

マニュアル 項番	デ ー タ 項 目			情報源
2.2	書誌構造			資料
2.1	著作とのリンク	WID		日本古典籍総合目録 (データベース)
		新規著作作成	統一書名	資料・参考資料
			著者	資料・参考資料
			その他識別事項	資料・参考資料
		新規著者作成	統一著者名	資料・参考資料
			著者別称	資料・参考資料
			その他識別事項	資料・参考資料
3.1	キーワード			資料・参考資料
3.2	刊・写の別			資料
3.3	標目書名			(記入しない)
3.4	記載書名			資料・よみは参考資料
3.5	記載著者名			資料・よみは参考資料
3.6	巻次			資料
3.7	書写事項			資料
3.8	出版事項			資料
3.9	数量			資料
3.10	形態的事項			資料
3.11	残欠表示			資料
3.12	叢書巻号表示			資料
3.13	注記			資料・参考資料
3.14	業務メモ			資料・参考資料

付表3 叢書・合綴等のデータ項目振り分け表

データ項目	叢書		合綴		合刻		合写	
	親レコード	子レコード	親レコード	子レコード	親レコード	子レコード	親レコード	子レコード
書誌構造	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
著作とのリンク(WID)	◎	◎	×	◎	×	◎	×	◎
キーワード	○	○	×	○	×	○	×	○
刊写の別	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
標目書名	○	○	○	○	○	○	○	○
記載書名	○	○	○	○	○	○	○	○
記載著者名	○	○	×	○	×	○	×	○
巻次	○	○	×	○	×	○	×	○
書写事項	○	○	×	○	×	×	○	×
出版事項	○	○	×	○	○	×	×	×
数量	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
形態的事項	◎	○	○	◎	◎	○	◎	○
残欠表示	○	○	○	○	○	○	○	○
叢書巻号表示	×	○	×	×	×	×	×	×
注記	○	○	○	○	○	○	○	○
業務メモ	○	○	○	○	○	○	○	○

◎ 必須 ○ 該当すれば、または必要に応じて採録 × 不採録

* 原則として親レコードには全体に関する事項、子レコードには各々の細目に関する事項を記入する。例えば、資料の数量については、親レコードには全体の数量、子レコードにはその著作の含まれている資料の数量を記入する。

付表4 叢書・合綴等のデータ構造及びデータの作成と表示

	資料（例）	データ構造	データ作成	公開データベースの検索結果の表示
叢書	三代集（嘉永6年刊 6冊）	資料の書誌的構造、親子の関係、子レコードの順序等を書誌構造のデータによって示す	親レコード A （1件）	子書誌：a1, a2, …, an 表示：書誌構造
	古今和歌集（2冊） 後撰和歌集（2冊） 拾遺和歌集（2冊）		子レコード A1, A2, …, An （n件）	親書誌：a, （叢書巻号表示） 表示：書誌構造
合綴・合刻・合写	〈合刻の例〉 刊 1冊	資料の書誌的構造、親子の関係、子レコードの順序等を書誌構造のデータによって示す （合刻・合写の子レコードはダミーの書誌）	親レコード A （1件） （親レコードは著作リンク情報をもたない）	子書誌：a1, a2, …, an 表示：書誌構造
	おあん物語 おきく物語		子レコード A1, A2, …, An （n件）	親書誌：書名なし 表示：書誌構造

*1 合綴・合刻・合写の子レコードの数量は、各々の細目が含まれている資料の数量とする。

*2 叢書内合刻、合綴内合写、その他、第2レベルの親子の関係をもつ場合は、この組み合わせとなる。

*3 a は親レコードのリンクしている著作の統一書名、a1, a2, …, an は各々の子レコードのリンクしている著作の統一書名。
a、a1、a2、…、an 何れか参照したいレコードの書名をクリックすると、別ウィンドウが開き、該当するレコードの詳細が表示される。
また、「書誌構造」をクリックすると、同様に別ウィンドウが開き、全体の関係が表示される。

【付録】 和古書メディア情報の記入について

1. 所蔵者・コレクション情報

所蔵者ならびにコレクションを示す情報として、該当するコレクションデータの7桁のレコード番号を付与する。

〔例〕 3045000 国文学研究資料館（一般）
3045003 〃 初雁文庫

2. メディア情報

ここには、書誌データに対応する原資料ならびに複製媒体に関する管理情報を示す。

2. 1 和古書メディア

〈原資料請求記号〉

原資料の請求記号を、15桁固定長で記入する。

タ	2	0	2	2	4	0	0	0	0	—	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

2桁 …分類記号

4桁 …図書番号

4桁 …先頭分冊番号

1桁 …‘—’（ハイフン）

4桁 …最終分冊番号

とし、各ブロック右詰左ゼロ埋めとする。

また、分冊番号が無い場合も—（ハイフン）、ゼロ埋めは記入する。

〔例〕 タ202240000—0000 分冊番号が無い場合
 タ700320001—0002 2分冊の場合
 9900320001—0002 〃

なお、複数冊に対応する書誌レコードが複数含まれる場合、請求記号はそのレコードが属する分冊番号のみを記入する。

〔例〕 タ700320002—0000 2分冊目に対応する書誌レコードの場合

〈登録番号〉

原資料の登録番号を記入する。数字のゼロ埋めはしない。

複数の場合は、二連番または飛び番は・（中黒）で、三連番以上は -（ハイフン）で区切り記入する。

〔例〕 115749
104788・104789
103938-103952
122534-122537・137459